

内灘町地域公共交通計画

(素案)

内灘町

令和 8 年 3 月

目次

1. 計画策定の目的と計画の概要.....	1
1-1. 策定の目的.....	1
1-2. 計画の区域.....	1
1-3. 計画の期間.....	1
1-4. 計画の位置づけ.....	2
2. 上位・関連計画の整理.....	3
3. 地域および地域公共交通の現況.....	12
3-1. 人口と施設分布.....	12
3-2. 地域公共交通の運行状況.....	15
3-3. 地域公共交通の利用状況.....	17
3-4. 地域公共交通にかかる町負担額.....	27
3-5. 町民の満足度.....	29
4. 地域公共交通の課題.....	31
5. 地域公共交通の基本方針と目標.....	32
5-1. 基本方針.....	32
5-2. 目標値.....	33
6. 目標を達成するために行う施策と実施主体.....	34
6-1. 地域公共交通ネットワーク.....	34
6-2. 取り組み施策の概要.....	36
7. 計画の推進体制と進捗管理.....	48

1. 計画策定の目的と計画の概要

1-1. 策定の目的

内灘町の公共交通は、北鉄浅野川線、民間バス路線、コミュニティバス、タクシーにより構成されており、広域交通は鉄道と一部の民間バス路線が担い、生活交通は鉄道駅を拠点とした民間バス路線、コミュニティバス、タクシーにより支えられています。

令和3年3月の「内灘町地域公共交通計画」が策定されて以降、石川県中央都市圏（金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町）地域公共交通協議会による石川県中央都市圏地域公共交通計画の策定や、北陸鉄道浅野川線について、鉄道事業再構築実施計画の認定による「みなし上下分離方式」の導入など、内灘町の公共交通を取り巻く環境には大きな変化がありました。また、令和6年能登半島地震が発災し、町域の北部（宮坂地区・西荒屋地区・室地区・湖西地区）において深刻な液状化被害が発生し、当該地域に居住する多数の町民は、応急仮設住宅への避難生活の長期化を余儀なくされています。

内灘町の公共交通の現況把握及び課題整理により、地域公共交通の活性化及び再生に向けた取り組みの方向性を定め、限られた財源を有効活用するために地域公共交通計画を新たに策定することで、総合的な公共交通網の維持、改善を図ることを目指します。

1-2. 計画の区域

計画区域は町内全域とします。ただし、町民の移動実態を視野に入れ、区域外については、当該自治体等と連携して事業を行うものとします。

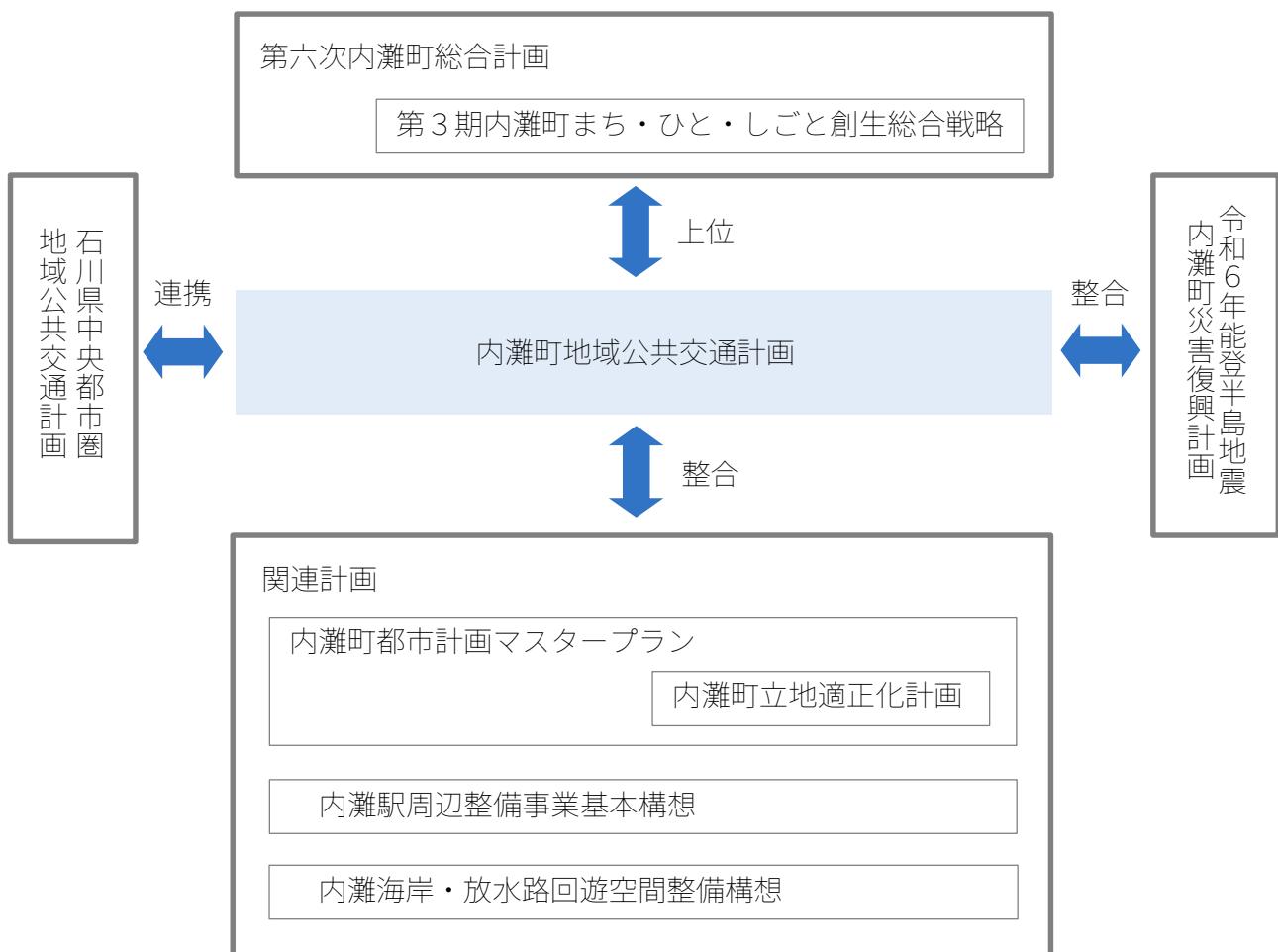
1-3. 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度の5年間とします。

1-4. 計画の位置づけ

内灘町地域公共交通計画は、令和8年3月に策定される「第六次内灘町総合計画」を上位計画として、この計画に基づいて策定することとします。また、石川中央都市圏域の公共交通の在り方を定めた「石川中央都市圏地域公共交通計画」との連携を図ります。

また、「令和6年能登半島地震内灘町災害復興計画」、「内灘町都市計画マスタートップラン」、「内灘駅周辺整備事業基本構想」、「内灘海岸・放水路回遊空間整備構想」との整合を図り、防災分野や関連事業構想の取り組みを勘案することとします。



2. 上位・関連計画の整理

(1)第六次内灘町総合計画

①まちの将来像

ともに支え、ともに歩む

希望育むまち うちなだ

②計画策定の趣旨

本町は平成27年度に第五次内灘町総合計画を策定し、まちの将来像の実現に向けて各種施策を推進してきましたが、町の状況は策定時と大きく異なっています。

令和6年能登半島地震をはじめ、近年では豪雨や台風等の大規模な自然災害リスクが顕在化しているほか、人口減少による地域経済の縮小や担い手不足等が懸念されています。また、デジタル技術の進展や持続可能な社会の構築に向けた取り組み、地球環境に対する関心の高まりなど、私たちを取り巻く環境は大きく変化しており、震災からの復旧・復興と並行して、地域の活性化に結びつく新たな視点を取り入れたまちづくりを進めることが必要です。

本計画は、住民と行政が一体となり、近隣市町との相互協力を図りながら、今後も安全で住みよいまちとして持続的に発展するためのまちづくり指針として、令和8年3月に策定しました。

【第六次内灘町総合計画における施策体系】



(2) 石川中央都市圏地域公共交通計画

① 基本理念

“住みやすさ”日本一の圏域の実現を支えるひと中心の持続可能な交通ネットワークの構築

② 計画の目的

金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町及び内灘町の4市2町で構成する「石川中央都市圏」では、市町をまたぐ移動が多く、公共交通の役割は大きなものとなっていますが、昨今、コロナ禍や燃料価格高騰などにより、住民の不可欠な移動手段である鉄道・バス等の広域交通は危機に瀕しており、その持続性を早急に確保することが必要な状況にあることから、圏域内をスムーズに移動できる交通サービスの実現や広域的な公共交通網の構築に向け、本計画を策定します。

③ 基本方針

「“住みやすさ”日本一の圏域の実現を支える ひと中心の持続可能な交通ネットワークの構築」

基本方針1

超高齢・人口減少社会に対応した広域的な公共交通網の構築

- ・ 超高齢・人口減少社会においても、広域的な公共交通網を構築していくことで、人々の円滑な移動を支え、活発な交流や連携を促進します。
- ・ 商業施設と駅などを結んで運行されているシャトルバスとも連携して地域公共交通ネットワークを考えていきます。

基本方針2

分かりやすく使いたくなる公共交通の利用環境の改善

- ・ 交通結節点となる駅や主要バス停における待合環境の向上や、パーク・アンド・ライド駐車場の拡充により、公共交通利用のハードルを下げ、自動車交通からの転換や新規需要の創出を図ります。
- ・ MaaSの推進やユニバーサルデザイン、無人駅等のバリアフリー化などにより、公共交通の利用しやすさ・分かりやすさを向上させることで、子どもやお年寄り、障害のある方なども含め、誰もが利用しやすい環境を整備し、持続可能な社会の実現を目指します。

基本方針3

公共交通利用促進に向けた住民等の意識醸成

- ・ モビリティマネジメントやマイレール・マイバス意識の醸成など、公共交通の意義や魅力を効果的・積極的に発信し、公共交通のあり方を自分事として捉えてもらうことで、愛着心を高め、公共交通の自発的な利用を促進します。

(3) 令和6年能登半島地震内灘町災害復興計画

①基本理念

ともに創ろう、災害に強く住みよい内灘

②計画策定の趣旨

令和6年1月1日に最大震度7を観測した令和6年能登半島地震では、石川県をはじめ、各所において甚大な被害を受け、本町においても震度5弱を観測し、過去に類を見ない側方流動を伴う液状化現象が広範囲にわたり発生しました。住家や道路、上下水道等のインフラ施設への被害は、町民生活や経済活動に大きな影響を及ぼし、復旧には長期間を要することが見込まれています。

「ともに創ろう、災害に強く住みよい内灘」を基本理念に、町民に寄り添いながら、計画的に災害に強く住みよいまちづくりを進めるため「内灘町災害復興計画」を令和7年3月に策定しました。

③復旧・復興に向けた基本方針（3本の柱）および体系



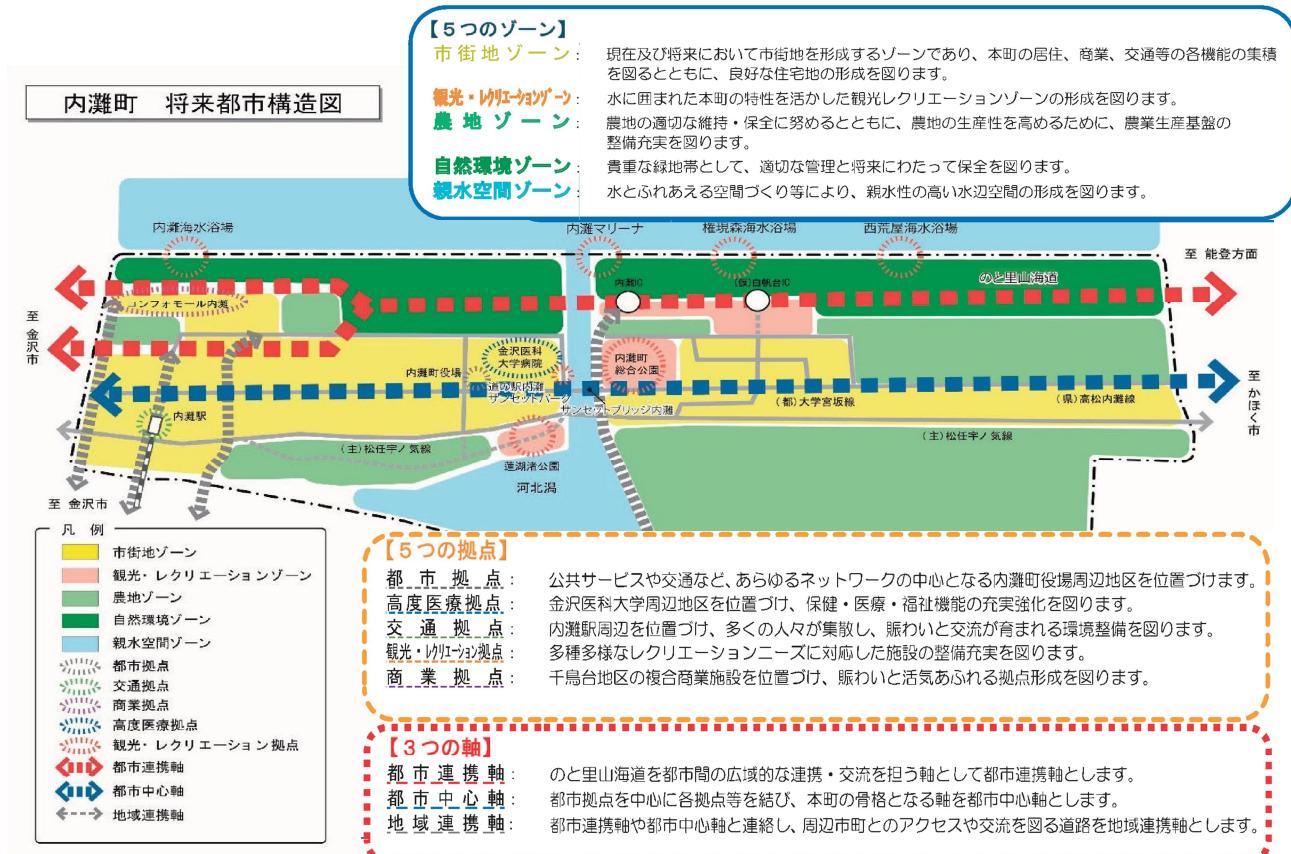
(4) 内灘町都市計画マスタープラン

将来都市像

人がいきいき まちが元気 個性が輝く魅力あるまち うちなだ
～ 豊かな水辺に包まれた快適住環境のまちづくり～

- 公共交通の活性化を推進することとしており、特に、浅野川線については、鉄道会社、金沢市等の関係機関とともに、利用の利便性向上と利用促進を図る。内灘駅前については、バス・電車交通結節点の機能強化となるよう整備、及びパーク＆ライドを推進することとしている。
- 内灘駅における鉄道と民間路線バス及びコミュニティバスとの接続性を高め、バス交通の利用の利便性向上と町民の利用促進を図る。さらに、バス運行による南部、北部地域の連携強化を図るとともに、町内を循環する利便性の高い公共交通ネットワークの形成を図ることとしている。

【将来都市構造図】



～ 第3章 都市整備の方針（1）道路・交通施設整備の方針

⑤内灘駅周辺の交通の円滑化及び公共交通ネットワークの形成より抜粋～

公共交通については、「内灘町地域公共交通協議会」において、浅野川線、コミュニティバスなど、既存の公共交通の今後のあり方を検討しており、「内灘町地域公共交通総合連携計画」に基づき、公共交通の活性化を推進する。特に、浅野川線については、鉄道会社、金沢市等の関係機関とともに、利用の利便性向上と利用促進を図り、路線の永続的確保に努める。

内灘駅前については、駐輪場の拡張や自動車送迎用スペースの確保等を図ることにより、バス・電車交通結節点の機能強化となるよう整備を推進する。また、交通利便性の向上や公共交通機関の利用促進が期待できるパーク＆ライドを推進するためにも、内灘駅周辺での駐車場の確保について検討する。

その他、内灘駅における鉄道と民間路線バス及び「なだバス ナディ」との接続性を高め、バス交通の利用の利便性向上と町民の利用促進を図る。

さらに、バス運行による南部、北部地域の連携強化を図るとともに、町内を循環する利便性の高い公共交通ネットワークの形成を図る。

～ 第5章 地域別の方針 より抜粋～

≪1. 南部地域 (8)地域の将来像 ②まちづくりの基本方針

2)都市施設の整備方針 G 道路・交通施設整備の方針≫

内灘駅において、鉄道と民間路線バスの交通結節としての機能強化を図り、玄関口としての利便性向上を図る。

また、交通利便性の向上や公共交通機関の利用促進が期待できるパーク＆ライドを推進するためにも、内灘駅周辺での駐車場の確保について検討する。

≪2. 北部地域 (8)地域の将来像 ②まちづくりの基本方針

2)都市施設の整備方針 G 道路・交通施設整備の方針≫

地域住民の利用ニーズに対応した利便性の高いバスの運行体系を構築し、南部地域との連携強化に資する公共交通網の確立を図る。

(5) 内灘町立地適正化計画

① 計画の目的

内灘町においては、平成27年度に策定した都市計画マスタープランに沿ってまちづくりを進めてきましたが、町の人口が平成27年をピークに減少に転じるなど、社会情勢が大きく変化しつつあります。特に、令和6年に発生した能登半島地震では、町内の広範囲にわたって側方流動を伴う液状化現象が起こり、家屋倒壊や道路が隆起するなどの甚大な被害をもたらしました。

このような社会情勢を踏まえ、本町では、持続可能なまちづくりと地域公共交通の連携とともに、災害リスクの分析を行うことで、安全に暮らし続けることができ、かつ利便性が高く住みよいまちを実現するため、「立地適正化計画」を令和8年3月に策定しました。

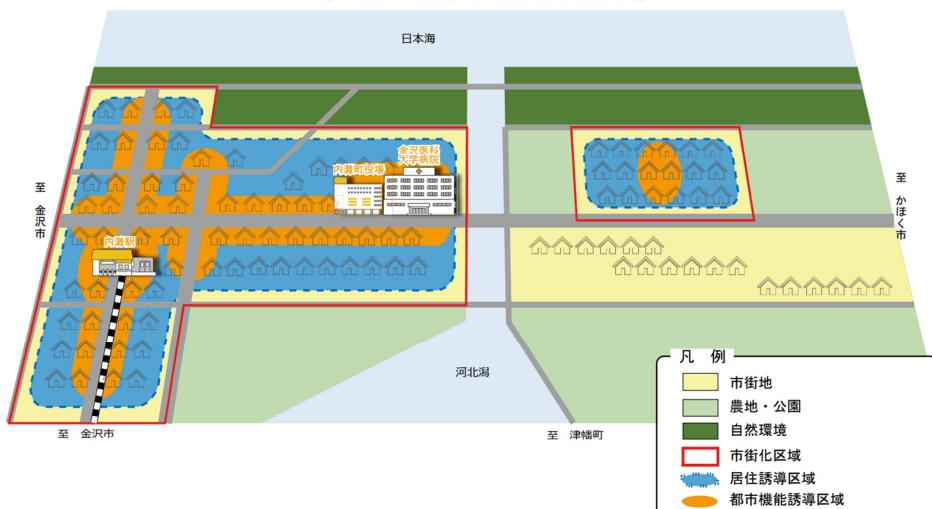
② 基本目標

- 1 コンパクトで持続可能な都市の形成
- 2 暮らしや賑わいをつなぐ地域交通ネットワークの再構築
- 3 地域の魅力や活力を創出する拠点の整備
- 4 誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりの推進【防災施策】

③ 将来都市構造図

内灘町では、前述の都市計画マスタープランの将来都市構造図に基づき、誘導区域を設定します。具体的には、市街地ゾーンのうち市街化区域の中において、災害リスクの高い区域を除いた、都市や地域を結ぶ軸の沿線や、都市拠点・交通拠点・高度医療拠点のほか、都市の拠点となり得る公共施設の立地・整備箇所の周辺に都市機能を集約していくという考え方のもと、誘導区域の設定を行っていきます。

【立地適正化計画の将来都市構造図】



(6) 内灘駅周辺整備事業基本構想

内灘駅周辺において、①一般車、バス、自転車の動線分離、②安全に往来できる駐輪・送迎スペースの確保、③単なる交通機能だけではなく、町民が駅で快適に集うことができる交流・賑わい機能の確保、を計画している。

～ 第5 整備計画図 より抜粋 ～

■交通機能の確保方針	
人と公共交通優先の、安全に乗換ができる駅前空間とすること。 (一般車とバスの動線分離、自転車動線の確保)	
安全に往来できる駐輪、送迎スペースを確保すること。	
①路線バス、コミュニティバス	路線バス2バース、コミュニティバス「なだバス」2バースの計4バースを設置。 公共交通優先の考え方及び電車・バスの安全かつスムーズな乗り継ぎを実現するため、車道を横断させず、改札口から近い位置に配置する。また、動線上はすべてシェルターを設置し、雨雪時においても快適に乗り継ぎができるよう配慮する。 駅前の混雑を避けるとともに安全な往来とするため、バスと一般車との動線は極力交錯しないよう配慮する。
②タクシー乗降場	今後の観光客の増加を見込み、3台分の停車スペース＋タクシープール3～4台分を確保する。 荷物を持った旅客への配慮のため、バスに次いで改札口に近い位置とする。 安全な乗降のため、バス及び一般車との動線を分離する。
③駐輪場	少子化の影響で自転車利用者が今後増えることは考えにくいことから、現行の駐輪スペースと同程度を確保する（150～200台程度）。駅前広場内の自転車の危険な往来を防ぐため、ロータリー内のバス、タクシー、一般車との動線が交錯しない位置に配置する。
④一般車送迎スペース	現状の一般車のロータリー進入台数を踏まえて、新たに10台程度の送迎スペース（一時停車場）を設ける。 設置位置はバス、タクシーの動線を避けた位置に設置する。
⑤一般車駐車場	パーク・アンド・ライド需要への対応のため、新たに一般車駐車場を

	設ける。
--	------

表 交通機能施設整備方針のまとめ

交通機能	現状	需要	整備方針
①路線バス、コミュニティバス	最大2～3台停車可能	平成30年度よりコミュニティバスが1台増車	路線バス2台、コミュニティバス2台分
②タクシー乗降場	常時2～3台停車	観光客の増加に対応	停車スペース3台＋タクシープール3～4台
③駐輪場	150～200台（一部上屋つき）	少子化による人口減少の影響	現状維持
④一般送迎スペース	なし（ロータリー内が混雑）	ピーク時に6～7台程度	10台程度
⑤一般車駐車場	なし（月極駐車場が若干あり）	町北部方面からのパークアンドライドの需要を見込む	20台程度
駅前広場	ロータリー内のモニュメントの老朽化、案内等がない	駅利用者の利便性、賑わいの場	駅舎周辺に広場を設ける

■交流・にぎわい機能の確保方針

- 単なる交通機能だけではなく、町民が駅で快適に集うことができる交流・賑わい機能を持つこと。
- 内灘を訪れる方が、「内灘らしさ」を感じることが出来る空間づくり（観光ビジョンに掲げた「海が輝き笑顔あふれるロマンに満ちた石川の湘南」の実現のため、内灘駅で「内灘らしさ」を感じることができる）

①駅機能	駅舎内には、鉄道駅としての機能確保のため必要な施設として、出札口（窓口）、自動券売機、改札口、駅務室（事務室、休憩室等）、待合室（ベンチ等）、トイレを設ける。
②商業機能	待合い旅客の利便に資するとともに、駅のにぎわい創出のため、ミニコンビニ（売店）、カフェ（喫茶）、飲食店の入居を想定する。
③観光機能・交流にぎわい機能	観光案内所を駅舎内に設け観光客の案内に資するとともに、駅周辺の観光案内板、町の紹介パネルなどの設置を検討する。
④駅舎の規模及び形態	上記①～③を含め、2階建て程度の建屋を想定する。なお、ホームの移設の有無により、現在地での建て替えまたは島式ホームに伴う駅舎の2案を検討する。

(7) 内灘海岸・放水路回遊空間整備構想

① 基本理念

人がふれあい 潮風と遊ぶ 内灘海岸・河北潟放水路

② 経緯と目的

内灘町には、内灘海岸をはじめ河北潟や内灘大橋（サンセットブリッジ）などの魅力的な観光資源・地域資源が点在していますが、これらをつなぎ、回遊性を向上させることによって、町の魅力をより一層引き出すことが必要です。本構想は、河北潟放水路防潮水門の移設工事を契機として、「内灘海岸や河北潟放水路を軸とした賑わい創出」と「交流人口の拡大及び観光振興」を目的に、回遊性を持たせた施設等の整備の実現を目指して策定するものです。

③ 基本方針

●回遊性やアクセスの向上

- ・内灘海岸（内灘海水浴場周辺）と河北潟放水路を結ぶ海浜通行路「内灘海岸賑わい創出道路」の整備
- ・河北潟放水路の河川敷及び法面における遊歩道の整備
- ・賑わい拠点施設（案内所、飲食店、売店等）の整備
- ・駐車場、公衆トイレ、ベンチ、四阿など休憩スポットの整備
- ・多様なモビリティ（移動手段）の充実

●内灘らしさを活かしたスポットの充実

- ・海や砂丘、河北潟など内灘らしさを活かしたアクティビティ体験施設（ジップライン、遊覧（漁）船発着所等）の整備
- ・誰もが気軽に、安全・安心にレジャーを楽しめる環境（釣り用安全柵等）やバリアフリー施設（ユニバーサルビーチ等）の整備
- ・グランピングやキャンプ場などアウトドア体験ができる宿泊施設の整備
- ・自然や町の歴史などに関する学びの場の充実

●賑わい創出のための取り組み

- ・夕日、海、砂丘などを活かした撮影スポット（オブジェ、サンセットブリッジ内灘ライトアップ等）の整備
- ・自然の魅力やレジャー・イベントについての情報発信など観光プロモーションの推進
- ・大規模イベントの開催・誘致
- ・外国人観光客へ向けた観光情報や案内看板などの多言語化、受入れ体制の充実

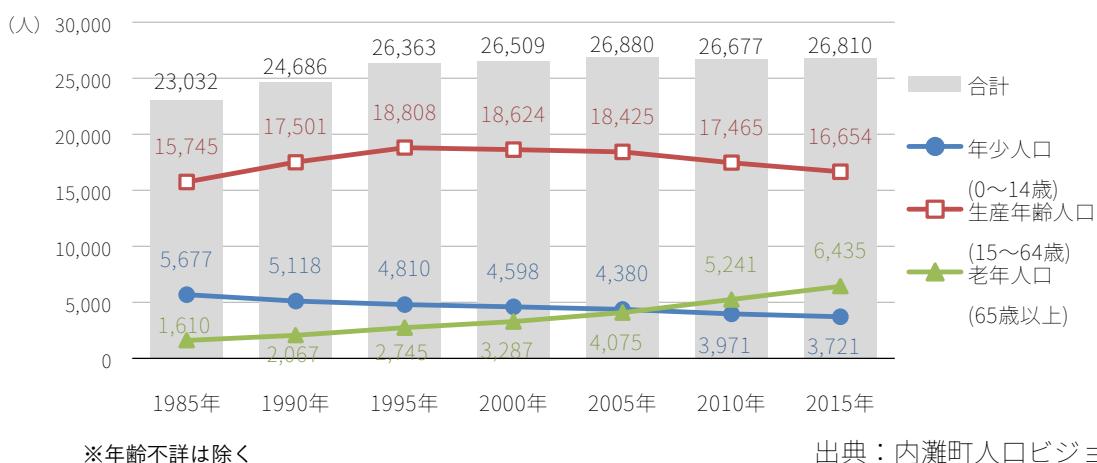
3. 地域および地域公共交通の現況

3-1. 人口と施設分布

(1) 少子高齢化の状況

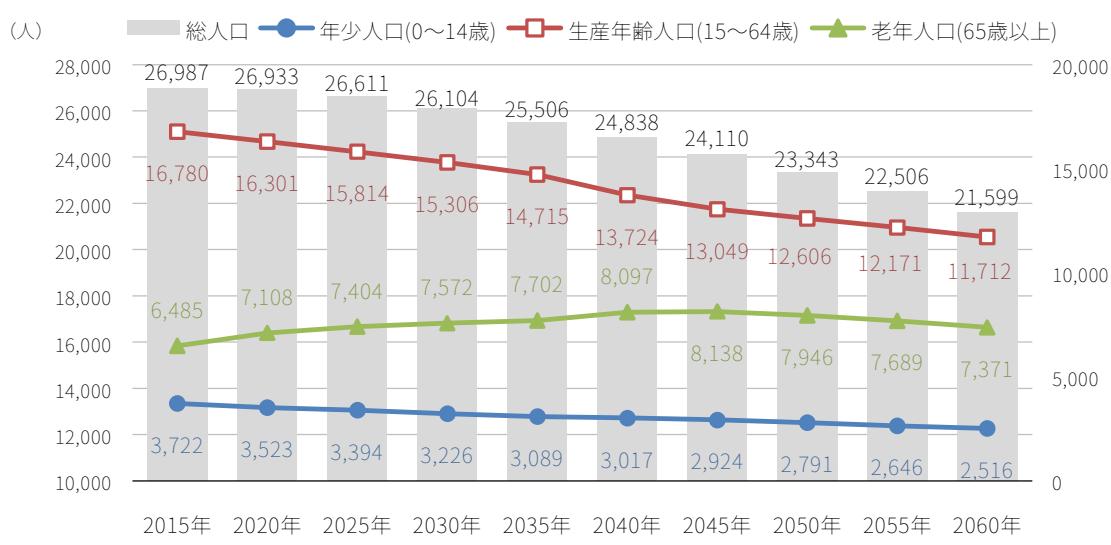
人口は、2005年まで増加しており、以降は横ばい傾向となっています。しかし、年少人口は減少傾向、老人人口は増加傾向が続いている、2010年には老人人口が年少人口を上回るなど少子高齢化が進んでいます。また、生産年齢人口は1995年をピークに減少傾向が続いている。

図表 年齢3区分別人口



国立社会保障・人口問題研究所推計準拠によると、2060年には本町の人口は21,599人、2015年と比較すると5,388人（約20%）減少し、また、老人人口は2020年から2025年の5年間で、約300人増加すると推計されています。

図表 内灘町の将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所推計準拠）

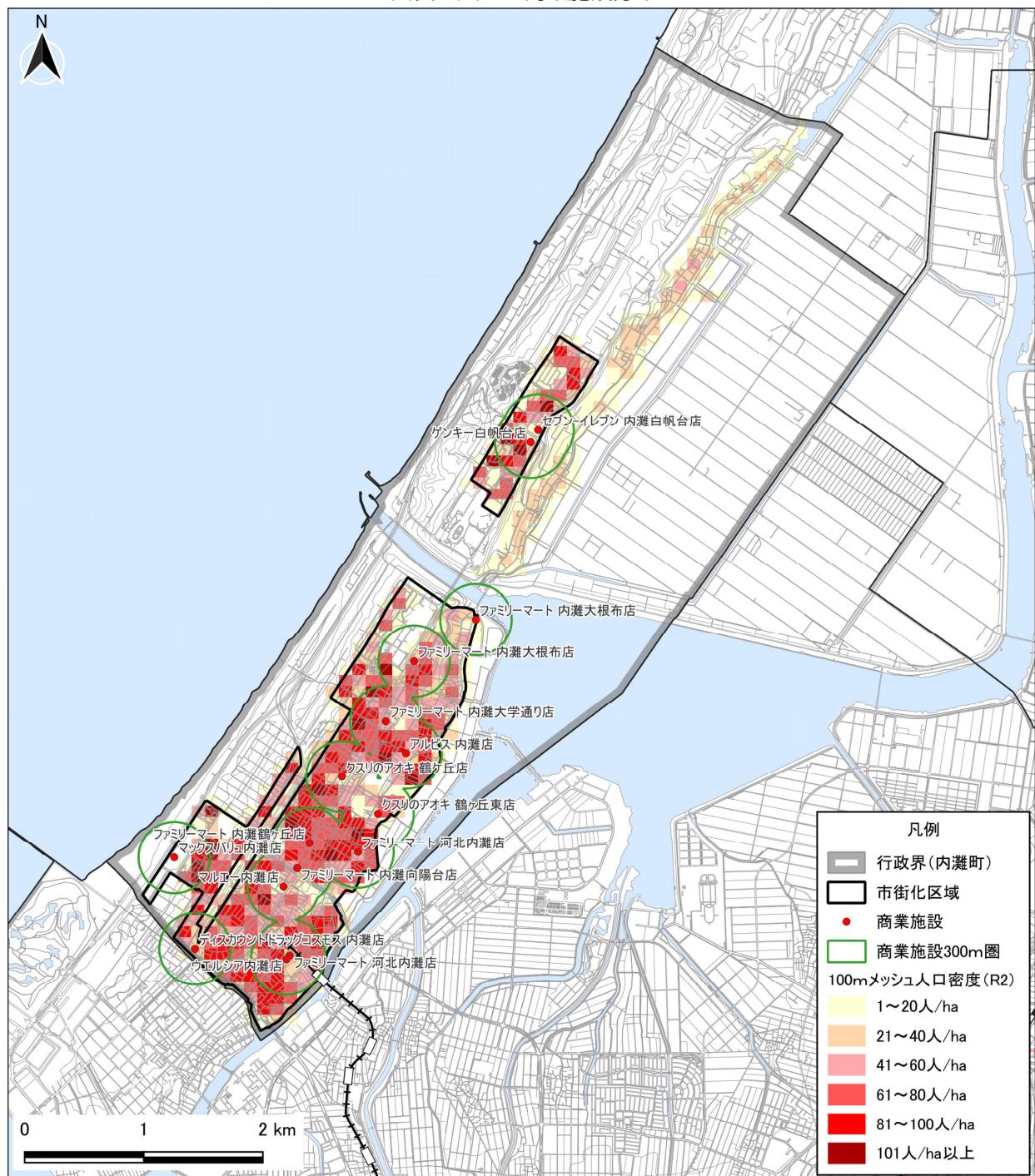


出典：内灘町人口ビジョン（R2）

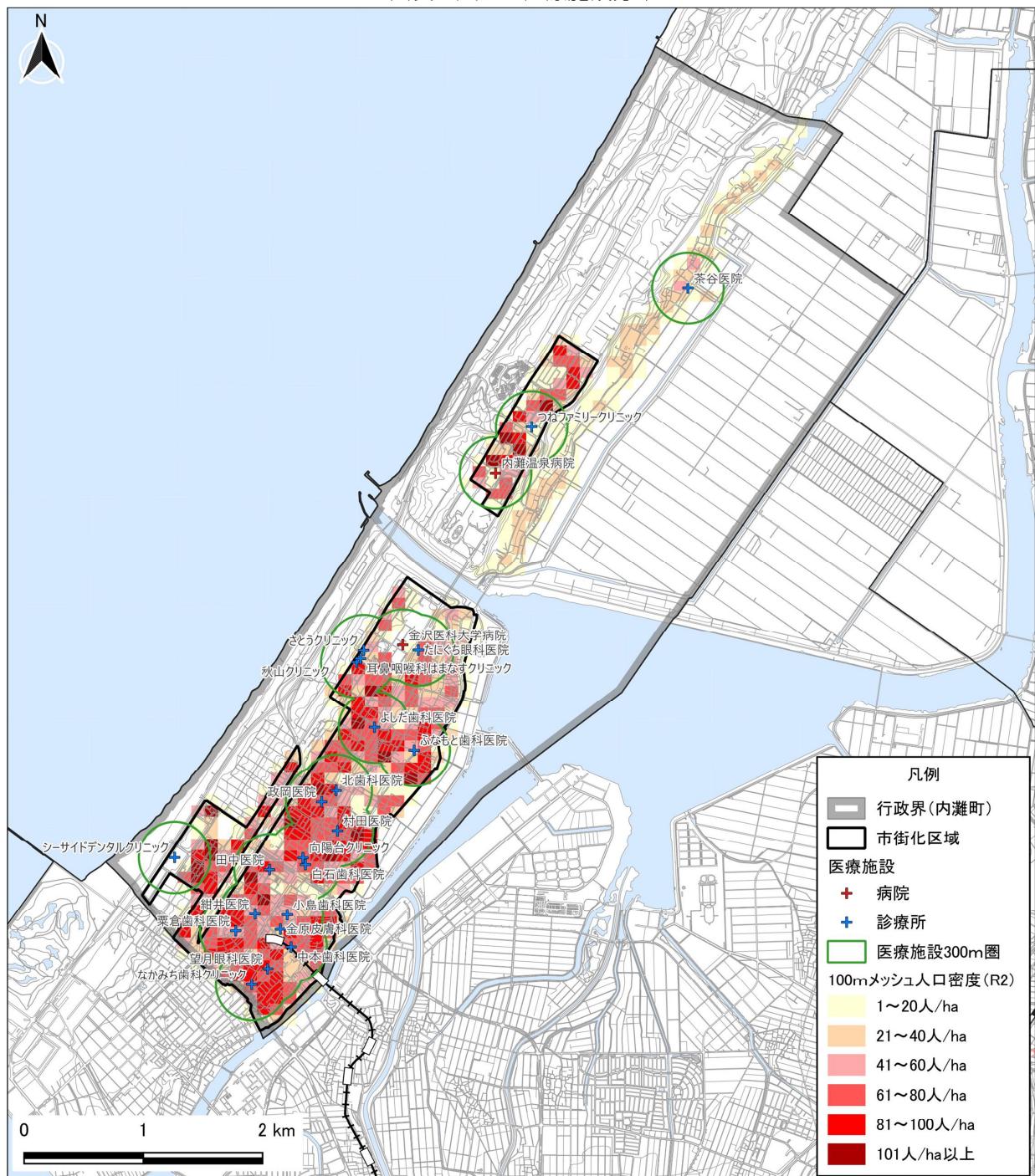
(2) 人口と施設分布

人口は、南部地区に集中していますが、北部の白帆台にも人口が集中しています。また、商業施設と医療施設も同様に南部地区に集中しています。北陸鉄道浅野川線の終点である内灘駅は、南部地区の南側に位置しています。

図表 人口と商業施設分布



図表 人口と医療施設分布



出典：国勢調査（R2）

3-2. 地域公共交通の運行状況

(1) 町内の公共交通の状況

町内には、北陸鉄道浅野川線や北鉄グループの路線バス4路線、コミュニティバス6路線のほか、北鉄グループの特急バス、民間企業等による無料の「イオンモールかほくお買い物巡回バス」「病院バス」が運行しており、町内ほぼ全域において、様々な交通手段が整備されています。

路線バスは、鶴ヶ丘住宅線が内灘駅で北陸鉄道浅野川線と接続しており、内灘駅と金沢医科大学病院（一部の便では白帆台）を結んでいます。その他の路線は、金沢市内につながる広域的な運行をしています。

コミュニティバス「なだバス ナディ」は、朝夕と昼間で運行体制（ルート）が異なり、朝夕は、通勤通学者をターゲットとして、路線バスが運行していない時間帯や地域と内灘駅を結ぶ「通勤通学ライナー」を運行し、日中は、買い物やほのぼの湯の利用などの目的で利用される「循環バス」と「往復バス」を運行しています。通勤通学ライナーは、「室ルート」と「白帆台ルート」の2ルートを北陸鉄道浅野川線に合わせて、日中は、「時計回りルート」「反時計回りルート」「8の字ルート」「北部ルート」の4ルートを等間隔で運行しています。

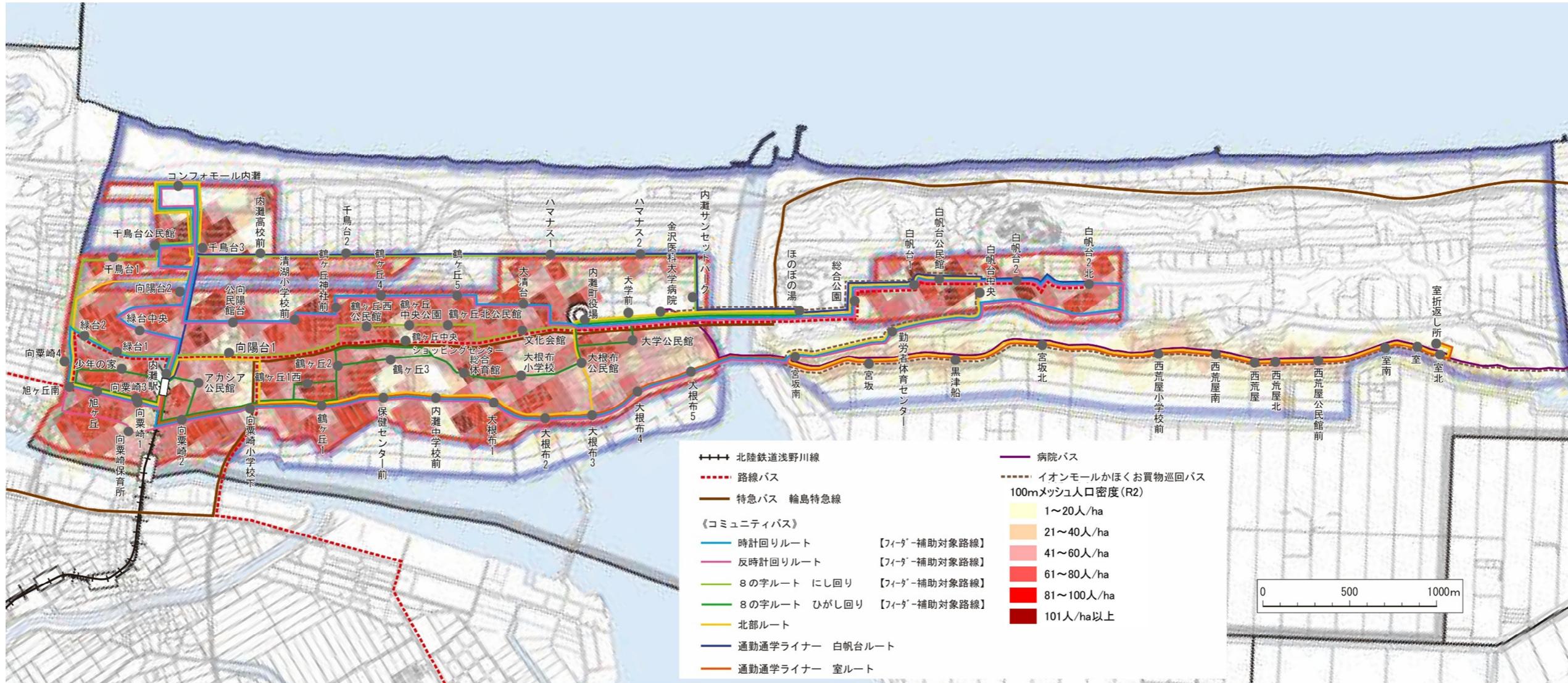
図表 町内の公共交通

路線名	主な起点	主な終点	便数/日		車両	運賃
			平日	日祝		
北陸鉄道浅野川線			74便	74便	—	対距離
路線バス	鶴ヶ丘住宅線	内灘駅	医大病院・白帆台	36便	29便	—
	錦町粟崎線	内灘駅	東部車庫・学院大学	86便	71便	—
	内灘線	金沢駅	内灘駅	8便	3便	—
	運転免許線	内灘駅	運転免許センター	6便	0便	240円
コミュニティバス	[朝夕]通勤通学ライナー	室ルート	6便	0便	コミューター1台 マイクロバス1台	100円
		白帆台ルート	6便	0便		100円
	[日中]循環バス	時計回りルート ※1	7便	7便	ポンチョ 3台	100円
		反時計回りルート ※1	7便	7便		100円
		8の字ルート ※1	5便	5便		100円
	[日中]往復バス	北部ルート	5便	5便	マイクロバス1台	100円
特急バス（輪島特急）			12便	12便	—	対距離
イオンモールかほくお買い物巡回バス 津幡・白帆台ルート			0便	7便	—	無料
病院バス（金沢医科大学病院利用者のみ）			16便	0便	—	無料
大学タクシー ※2			車両8台、運転手8人 医大病院に4台、内灘駅前に1台待機			

※1：地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）対象路線

※2：タクシーは町内に事業所があるもののみ掲載

図表 内灘町の公共交通



宮坂地区・西荒屋地区・室地区・湖西地区 について

令和6年度能登半島地震において被災した、北部における宮坂地区・西荒屋地区・室地区・湖西地区の既存集落では、地区外へと避難した住民も多く、コミュニティの衰退に拍車がかかることが危惧されています。

宮坂地区・西荒屋地区・室地区は市街化調整区域ですが、本震災を原因とした急激な人口減少に歯止めをかけていくことが必要だと考え、立地適正化計画において町の任意区域である「地域生活機能維持区域」を設定します。

湖西地区は都市計画区域外ですが、河北潟干拓地における、一団の農地と調和し居住を維持する「居住維持区域」を設定します。

区域内において、液状化対策の実施、コミュニティ施設の復旧、復興公営住宅の整備を図るとともに、地域振興・公共交通の維持によるアクセス確保に努めることとなっています。

3-3. 地域公共交通の利用状況

(1) 町内の公共交通利用者数

15歳以上の通勤通学者の76.2%が自家用車で移動しています。鉄道・電車・乗合バスのいずれかの公共交通利用が3.5%、公共交通の利用を含む「利用交通手段が2種類」の移動が5.0%となっています。

主に近接する自治体への通勤通学者の移動が多くなっており、特に金沢市への移動が通勤では約6,600人、通学では約750人と多くなっています。

図表 代表交通手段

利用交通手段		人数	割合
利用交通手段が1種類	徒歩	1,188	8.8%
	鉄道・電車	363	2.7%
	乗合バス	107	0.8%
	勤め先・学校のバス	95	0.7%
	自家用車	10,297	76.2%
	ハイヤー・タクシー	3	0.0%
	オートバイ	47	0.3%
	自転車	463	3.4%
	その他	148	1.1%
	利用交通手段が2種類	679	5.0%
利用交通手段が3種類以上		122	0.9%
計		13,512	100.0%

※15歳以上自宅外就業者・通学者数

出典：国勢調査（R2）

図表 通勤通学目的移動の発着地

	内灘町から出る人数		内灘町に入る人数	
	通勤	通学	通勤	通学
金沢市	6,648	744	1,581	113
七尾市	45	3	13	1
小松市	53	7	15	7
輪島市	3	1	1	-
珠洲市	4	-	-	-
加賀市	17	-	1	1
羽咋市	50	1	50	3
かほく市	527	13	534	11
白山市	485	26	77	12
能美市	55	-	17	3
野々市市	191	37	41	5
川北町	12	-	1	2
津幡町	307	37	385	8
志賀町	17	-	14	1
宝達志水町	49	-	74	2
中能登町	6	-	12	2
穴水町	6	1	3	-
能登町	4	-	5	1
県外	200	22	44	37

※15歳以上自宅外就業者・通学者数

出典：国勢調査（R2）

(2) 北鉄浅野川線

令和6年度の北陸鉄道浅野川線の内灘駅の利用者数は、1日あたり2,407人となっています。利用者の内訳は、乗降別では、乗車が1,248人(51.8%)、降車が1,159(48.2%)です。運賃の支払い種別では、定期が1,288人(53.5%)、定期外が1,119人(46.5%)です。

1日あたりの利用者数は、平成27年度以降徐々に増加していたものの、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、石川県で緊急事態宣言が出された令和2年度に大きく減少しました。その後、定期外利用は令和元年度の利用者数に近づいていますが、令和6年度の定期利用者は令和元年度の8割程度に留まっています。

図表 1日あたりの内灘駅利用者数及び運賃支払い種別利用者数(人)

年度	総数	定期			定期外		
		乗車	降車	計	乗車	降車	計
H27年度	2,572	725	725	1,450	571	551	1,122
H28年度	2,616	743	743	1,486	577	553	1,130
H29年度	2,742	785	785	1,570	602	570	1,172
H30年度	2,746	787	787	1,574	611	561	1,172
R1年度	2,723	770	770	1,540	520	663	1,183
R2年度	1,921	552	552	1,104	328	489	817
R3年度	2,071	617	699	1,316	434	321	755
R4年度	2,217	625	625	1,250	499	468	967
R5年度	2,329	626	626	1,252	566	511	1,077
R6年度	2,407	644	644	1,288	604	515	1,119

出典：北陸鉄道(株)、定期の中に通勤・通学を含む

図表 1日あたりの内灘駅利用者数の推移



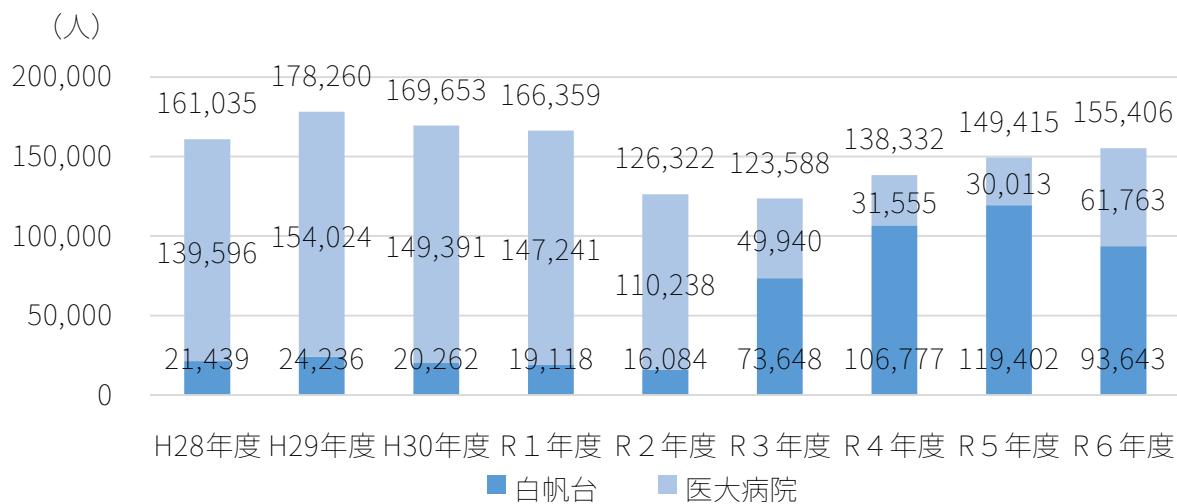
出典：北陸鉄道(株)

(3) 路線バス（鶴ヶ丘住宅線）

令和6年の鶴ヶ丘住宅線利用者数は、約15万5千人となっています。新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、令和2年に利用者数が大きく減少しましたが、それ以降利用が増加しています。しかし、感染拡大前の利用者数には届いていません。なお、通勤・通学の利用が多くなっています。（運行事業者ヒアリングより）

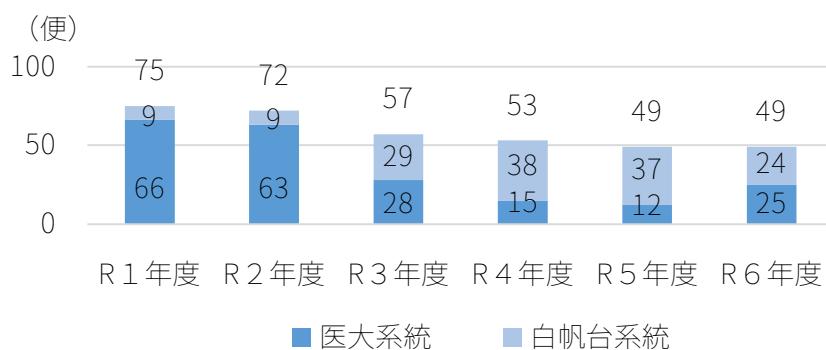
鶴ヶ丘住宅線は内灘駅で北鉄浅野川線に接続していますが、年々便数が減少しており、令和元年度は平日に75便でしたが、令和6年には49便となっています。

図表 鶴ヶ丘住宅線利用者数の推移



出典：北陸鉄道（株）、他の路線についてはデータなし

図表 鶴ヶ丘住宅線の医大系統・白帆台系統の便数推移（平日）



出典：北陸鉄道（株）

●運行事業者から出された課題

北陸鉄道グループ全体として、運転士不足が大きな課題であり、路線維持が厳しい状況です。これまで一部減便を行なうなどしてきたが、今後さらなる減便も必要になってくる可能性が大きいです。現状、運転士体験会の定期実施や雇用条件の改善を図ることで新規採用強化および離職防止に努めているものの大きな改善に至っていない状況です。

(4) コミュニティバス

①利用者数

コミュニティバスは令和5年度に、それまでの全町ルート、南部ルート、にしルート、ひがしルートから、時計回りルート、反時計回りルート、8の字ルート、北部ルートに改編されました。

令和6年度では、年間約12万人、1日当たり約340人がコミュニティバスを利用しています。北鉄浅野川線や路線バスと同様、新型コロナウイルスの影響で、令和2年度に大きく利用者は減少し、それ以降は増加傾向であるものの、新型コロナウイルス感染拡大前の利用状況には戻っていません。

日中ルートは、令和5年度から、現在のルート（時計回りルート・反時計回りルート・8の字ルート・北部ルート）での運行が始まりました。改編前の令和4年度と改編後の令和6年度の利用者数を比較すると1万人余り増加しています。

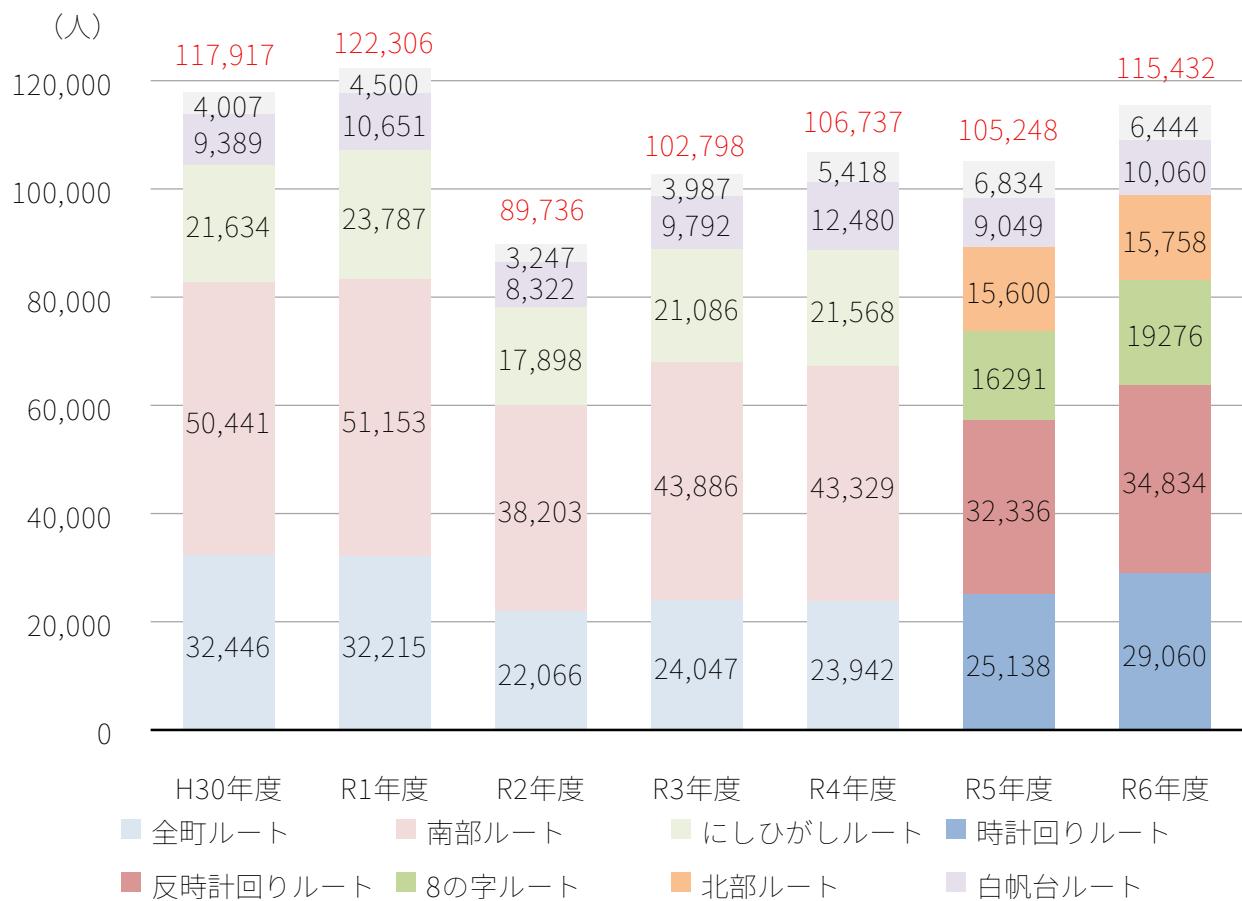
日中循環・往復バスでは60代以上の女性の利用が多く、通勤通学ライナーについては、高校生と通勤者の利用が多くなっています。（運行事業者ヒアリングより）

図表 ルート別乗客数の推移（単位:人）

ルート名		R2 年度		R3 年度		R4 年度		R5 年度		R6 年度		
		年間	1日当たり (1便当り)	年間	1日当たり (1便当り)	年間	1日当たり (1便当り)	年間	1日当たり (1便当り)	年間	1日当たり (1便当り)	
日中循環・往復	全町ルート	22,066	61.1 (12.2)	24,047	66.3 (13.3)	23,942	66.9 (13.4)					
	南部ルート	38,203	105.8 (11.8)	43,886	120.8 (13.4)	43,329	121.1 (13.5)					
	にしルート	9,394	26.0 (4.3)	11,036	30.4 (5.1)	11,571	33.1 (5.5)					
	ひがしルート	8,504	23.5 (3.9)	10,050	27.7 (4.6)	9,997	28.5 (4.8)					
	時計回りルート							25,138	69.3 (9.9)	29,060	80.0 (11.4)	
通勤通学	反時計回りルート							32,336	89.1 (12.7)	34,834	95.9 (13.7)	
	8の字ルート							16,291	44.9 (9.0)	19,276	53.1 (10.6)	
	北部ルート							15,600	42.9 (8.6)	15,758	43.4 (8.7)	
	白帆台ルート	朝	5,146	21.2 (4.2)	6,503	27.0 (5.4)	8,238	34.2 (6.8)	5,852	24.1 (8.0)	6,298	26.0 (8.7)
通勤通学	白帆台ルート	夕	3,176	13.1 (2.6)	3,289	13.6 (2.7)	4,242	17.7 (3.5)	3,197	13.2 (4.4)	3,762	15.5 (5.2)
	室ルート	朝	2,272	9.4 (2.3)	2,691	11.2 (2.8)	3,645	15.2 (3.8)	4,463	18.2 (6.1)	3,768	15.6 (5.2)
	室ルート	夕	975	4.0 (1.0)	1,296	5.4 (1.3)	1,773	7.4 (1.9)	2,371	9.7 (3.2)	2,676	11.0 (3.7)
	合 計		89,736	264.1 (6.0)	102,798	302.3 (6.9)	106,737	324.1 (7.4)	105,248	311.3 (8.6)	115,432	340.5 (9.5)

出典：内灘町

図表 コミュニティバス乗客数の推移



出典：内灘町

②バス停別利用状況

コミュニティバスの最も乗車数が多いバス停は内灘駅（19,500人）となっており、内灘駅を拠点とした利用がされていると言えます。ついで、コンフォモール内灘（12,840人）、ほのぼの湯（7,565人）、金沢医科大学病院（6,406人）となっており、買い物、福祉施設、病院の利用にコミュニティバスは使われています。

現在、6ルートが町内を運行しており、バス停ごとに停車回数が違うことも要因として考えられますが、利用があまりされていないバス停が見受けられます。

図表 ルート別バス停別乗車数 (R6年度)

番号	バス停	時計回り	反時計回り	8の字	北郷ルート	【朝】ライナー室	【夕】ライナー室	【朝】ライナー白帆台	【夕】ライナー白帆台	総計	割合
1	内灘駅	3,735	4,714	2,780	1,951		2,635		3,685	19,500	16.9%
2	コンフォモール内灘	4,086	3,977	2,227	2,550					12,840	11.1%
3	ほのぼの湯	1,709	2,535	2,409	912					7,565	6.6%
4	金沢医科大学病院	1,688	2,286	956	1,476					6,406	5.5%
5	大根布1丁目	1,861	1,201		1,269	647	9			4,987	4.3%
6	内灘町役場	906	1,677	945	1,014					4,542	3.9%
7	白帆台2丁目北	1,105	939					1,680		3,724	3.2%
8	鶴ヶ丘5丁目	736	2,479							3,215	2.8%
9	旭ヶ丘南	838	1,309	326	727					3,200	2.8%
10	鶴ヶ丘4丁目	986	2,127							3,113	2.7%
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·
65	緑台1丁目	145		59						204	0.2%
66	宮坂南	106	33		34					173	0.1%
67	向粟崎4丁目	155								155	0.1%
68	内灘サンセットパーク			153						153	0.1%
69	鶴ヶ丘3丁目			145						145	0.1%
70	室北				39	58	0			97	0.1%
71	アカシア公民館			65						65	0.1%
72	文化会館			40						40	0.0%
73	少年の家			35						35	0.0%
74	西荒屋南				8	1	0			9	0.0%
	総計	29,060	34,834	19,276	15,758	3,768	2,676	6,298	3,762	115,432	100.0%

③運行事業者から出された改善点

●わかりやすいバス停表記

各路線の時刻を同じ面で確認できず、また路線図も簡易的でわかりにくい状況です。

●往復ルートで短く・わかりやすく

「乗車時間が長い」という利用者からの声があります。運行ルートをわかりやすく簡潔にすることが望まれています。その際、利用の少ないバス停の見直しの検討も必要となる可能性もあります。

●バスの車両表記をわかりやすく

「通勤通学ライナー」の表記だと、利用者が特定されている印象を与え、利用してよいのか迷うという声があります。また、「○○ルート」だけだと、どこの行くのかがわからぬため、「○○行き」などの表記を追加することが考えられます。

●きめ細かなバス停の設置

雪の日などは、バス停まで歩くことが危険でバスに乗れないという声が北部に見られます。

●設備の更新

老朽化に伴う車両の更新、新紙幣・新硬貨に対応した両替機の更新が望まれています。

(5) 乗継状況

① 北鉄浅野川線との乗継状況

北鉄金沢駅行きの北鉄浅野川線に内灘駅で15分以内に接続するバス（コミュニティバス・鶴ヶ丘住宅線）は北鉄浅野川線37便中22便、内灘駅着の北鉄浅野川線に15分以内に接続するバス（コミュニティバス・鶴ヶ丘住宅線）は北鉄浅野川37便中24便となっています。5時台、6時台の朝の早い時間帯と、21時台、22時台、23時台の夜遅い時間帯の町内の乗継ができず不便になっています。

図表 北鉄浅野川線とコミュニティバス・鶴ヶ丘住宅線の乗継状況（上り）

内灘駅発時刻	浅野川線の便数とバスが15分以内に接続する浅野川線の便数	接続する便の割合
5・6時台	浅野川線4便中1便が15分以内にバスに接続	25%
7・8時台	浅野川線5便中4便が15分以内にバスに接続	80%
9～16時台	浅野川線16便中11便が15分以内にバスに接続	69%
17・18時台	浅野川線5便中3便が15分以内にバスに接続	60%
19・20時台	浅野川線4便中2便が15分以内にバスに接続	50%
21・22時台	浅野川線3便中1便が15分以内にバスに接続	33%

図表 北鉄浅野川線とコミュニティバス・鶴ヶ丘住宅線の乗継状況（下り）

内灘駅着時刻	浅野川線の便数とバスが15分以内に接続する浅野川線の便数	接続する便の割合
6時台	浅野川線2便中0便が15分以内にバスに接続	0%
7・8時台	浅野川線6便中5便が15分以内にバスに接続	83%
9～16時台	浅野川線16便中11便が15分以内にバスに接続	69%
17・18時台	浅野川線5便中5便が15分以内にバスに接続	100%
19・20時台	浅野川線4便中3便が15分以内にバスに接続	75%
21・22・23時台	浅野川線4便中0便が15分以内にバスに接続	0%

②路線バスとの乗継状況

駅西降車場着の錦町粟崎線に内灘駅で15分以内に接続するコミュニティバスは、錦町粟崎線6便中1便、内灘駅着の錦町粟崎線に15分以内に接続するコミュニティバスは錦町粟崎線5便中3便となっています。金沢駅西口着の内灘線に内灘駅で15分以内に接続するコミュニティバスは、内灘線4便中2便、内灘駅着の内灘線に15分以内に接続するコミュニティバスは内灘線4便中1便となっています。路線バスとコミュニティバスの接続は、あまり便利ではない状況です。

図表 錦町粟崎線・内灘線とコミュニティバス乗継状況（上り）

路線バス(上り)		コミュニティバス							
路線名	内灘駅発	駅西降車場着(粟) 金沢駅西口着(内)	時計回りルート	反時計回りルート	8の字ルートにし回り	8の字ルートひがし回り	北部ルート	室ルート	白帆台ルート
内灘線	6:45	7:24						○	○
錦町粟崎線	7:05	7:40							
内灘線	7:15	7:56							
錦町粟崎線	10:02	10:30							
錦町粟崎線	11:52	12:20			○				
錦町粟崎線	13:52	14:20							
錦町粟崎線	15:45	16:14							
内灘線	16:10	16:45					○		
内灘線	17:10	17:47							
錦町粟崎線	19:52	20:19							

※15分以内に乗継可能な便を掲載

図表 錦町粟崎線・内灘線とコミュニティバス乗継状況（下り）

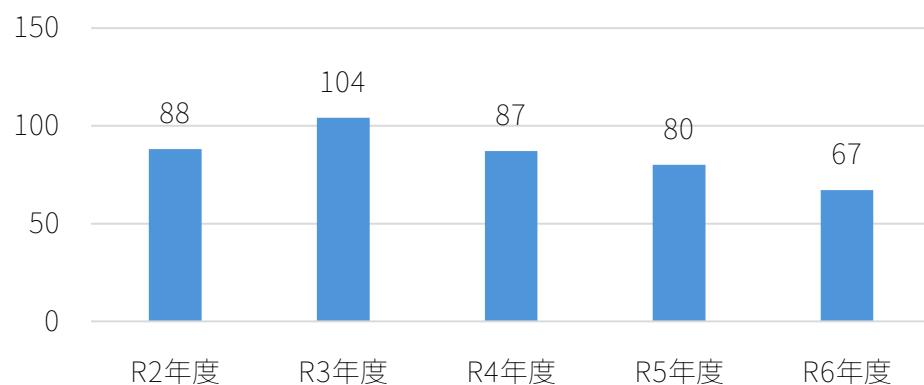
路線バス(下り)		コミュニティバス							
路線名	金沢駅西口発	内灘駅着	時計回りルート	反時計回りルート	8の字ルートにし回り	8の字ルートひがし回り	北部ルート	室ルート	白帆台ルート
錦町粟崎線	9:25	9:54			○				
錦町粟崎線	11:15	11:44							
錦町粟崎線	13:15	13:44							
錦町粟崎線	15:10	15:39			○				
内灘線	16:05	16:41							
内灘線	17:45	18:23						○	
内灘線	18:50	19:27							
錦町粟崎線	19:06	19:35						○	○
内灘線	20:20	20:53							

※15分以内に乗継可能な便を掲載

(6) 運転免許自主返納者数

令和 6 年度の 65 歳以上の運転免許自主返納者は 67 名となっています。令和 4 年度から減少傾向となっています。

図表 運転免許自主返納者数



出典：内灘町

＜高齢者運転免許証自主返納支援事業＞

○対象者（以下の条件をすべて満たす人）

- ・内灘町の住民基本台帳に記録されている人で、満年齢 65 歳以上の人
- ・平成 25 年 4 月 1 日以降に、運転免許証を自主返納した人、または免許証の有効期限が切れ、今後再取得の意志がない人

○支援内容 以下 3 点選択（重複可）

- ①町コミュニティバス「なだバスナディ」3ヶ月定期券
- ②町コミュニティバス「なだバスナディ」回数券 5,000 円分
- ③サンセットカード商品券 5,000 円分
- ④北陸鉄道グループ利用券 5,000 円分
- ⑤展望温泉ほのぼの湯利用券 5,000 円分

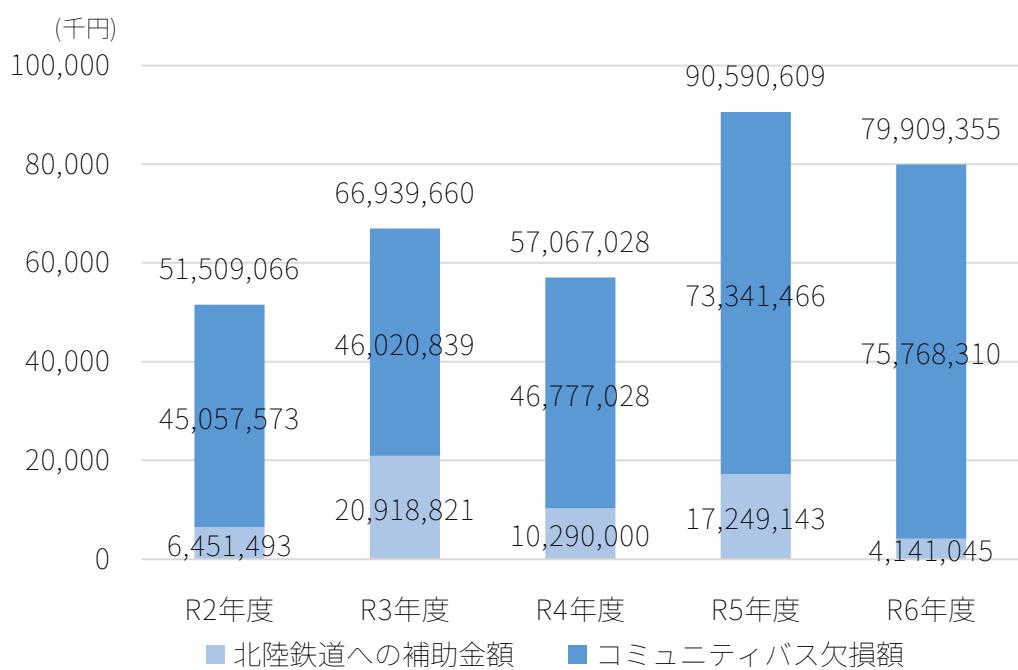
3-4. 地域公共交通にかかる町負担額

(1) 全体

令和6年度の地域公共交通にかかる町の負担額は、約8千万円になっています。主に、コミュニティバス運行のための欠損額が占めています。

なお、北陸鉄道への補助金額について、令和2~5年度にかけて車両の更新費用が含まれたため（令和2・4年度：1台、令和3・5年度：2台）、金額が高くなっています。令和7年度以降の15年は、みなし上下分離方式の導入による町負担額の増大が見込まれます。

図表 地域公共交通に対する町の負担額



出典：内灘町

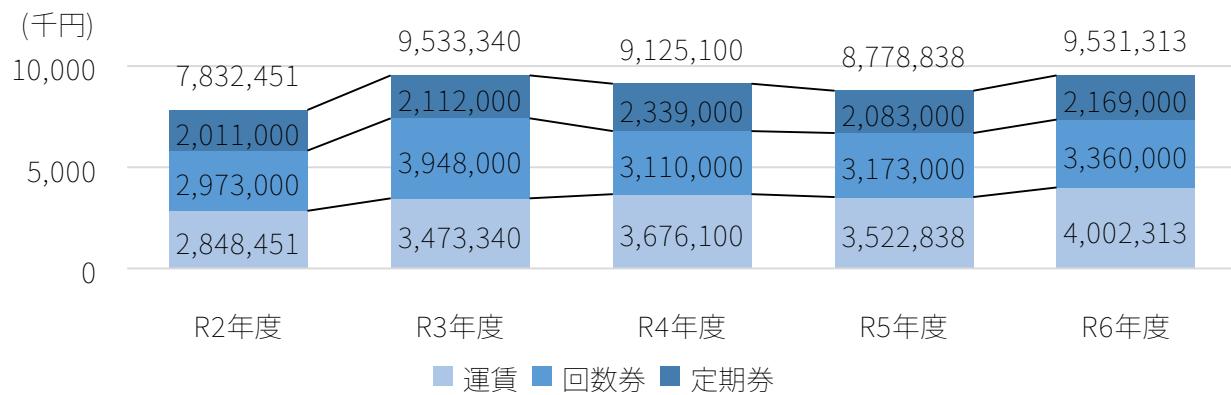
(2) コミュニティバス

コミュニティバスの運行経費は、令和5年度の改編により増加し、令和6年は約8千5百万円となっています。令和6年度の収入は約950万円となっており、運賃収入が多くを占め、定期券の収入は約2割となっています。80歳代の利用が多くなっていますが、18歳以下の利用も多いことが特徴で、通学で利用していることが想定されます。特に白帆台の利用者が62名と多くなっています。

図表 年間運行経費



図表 収入内訳



図表 年齢別定期券購入者

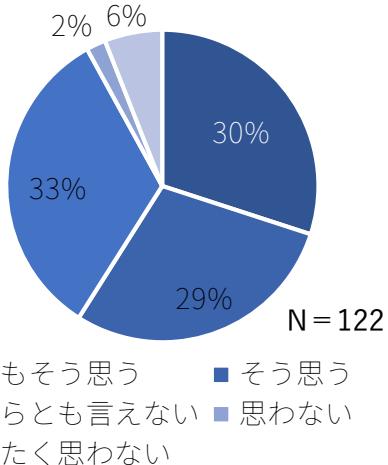
区分	R2 年度		R3 年度		R4 年度		R5 年度		R6 年度	
	人数	構成比								
90 歳代	39	8.2%	32	6.3%	29	5.5%	21	4.1%	10	2.0%
80 歳代	135	28.5%	145	28.8%	130	24.9%	156	30.5%	148	29.5%
70 歳代	101	21.3%	105	20.9%	91	17.4%	92	18.0%	91	18.2%
19~69 歳	101	21.3%	114	22.7%	146	27.9%	146	28.6%	145	28.9%
18 歳以下	98	20.7%	107	21.3%	127	24.3%	96	18.8%	107	21.4%
富坂・西荒屋・室・湖西	19	-	13	-	19	-	16	-	23	-
大根布	4	-	5	-	0	-	11	-	8	-
白帆台	62	-	79	-	89	-	56	-	62	-
ハマナス	4	-	4	-	6	-	2	-	11	-
千鳥台	8	-	6	-	8	-	4	-	1	-
その他	1	-	—	-	5	-	7	-	2	-
合 計	474	100%	503	100%	523	100%	511	100%	501	100%

3-5. 町民の満足度

半数以上の方が、過度に自動車に頼らなくとも移動できるまちの実現を望んでおり、自由意見の回答でも最も多いご意見となっています。

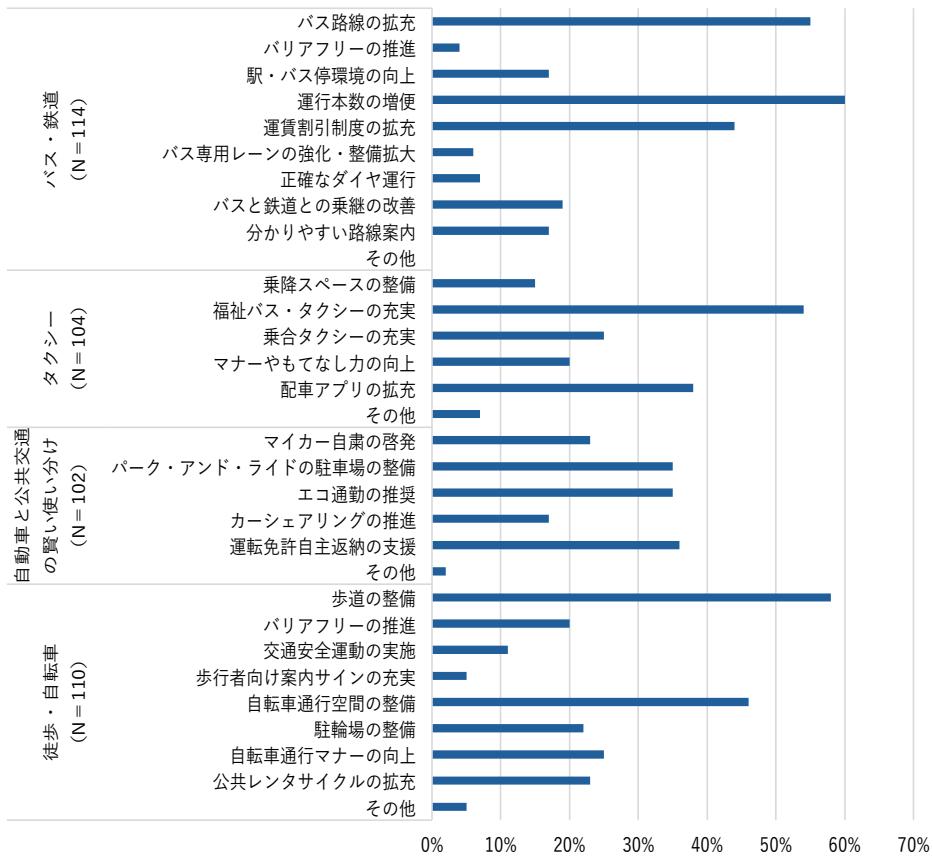
「バス路線の拡充」「運行本数の増便」を望んでいる方が多く、自由意見から、北鉄浅野川線と路線バスの接続便数の増加、夕方時間のコミュニティバス・路線バスの増便が望まれていることが推察できます。

図表 「過度に自動車に頼らなくても移動しやすいまち」を実現する必要はあると思うか



出典：中央都市圏地域交通計画 公共交通モニタリング調査※

図表 「過度に自動車に頼らなくても移動しやすいまち」の実現に必要なもの

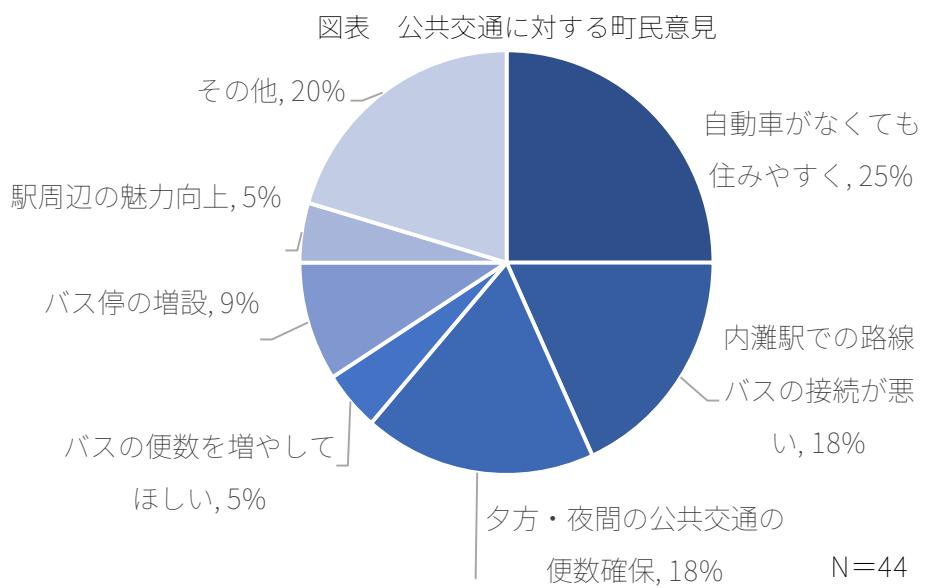


出典：中央都市圏地域交通計画 公共交通モニタリング調査※

※調査概要

調査時期：令和3年9月27日（月）～10月11日（月）

実施方法：住民基本台帳から無作為抽出により600世帯を抽出、各アンケートには個人調査票を3枚同封
郵送にて配布改修



出典：第六次内灘町総合計画の策定に向けた町民アンケート※

※調査概要

調査時期：令和7年5月14日（水）～6月5日（木）

実施方法：住民基本台帳から無作為抽出により2,000世帯を抽出し、郵送にて配布回収

4. 地域公共交通の課題

課題 1：持続可能な地域公共交通ネットワークの構築

内灘町では、北陸鉄道浅野川線の内灘駅を中心として、路線バス・コミュニティバスが運行しています。各交通機関の役割分担を明確にして、人口減少・高齢化に対応する持続可能な地域公共交通ネットワークの構築が必要です。

課題 2：地域公共交通の利便性向上と利用促進

内灘町の地域公共交通は、北鉄浅野川線、路線バス鶴ヶ丘住宅線、コミュニティバスいずれにおいても、利用者数が年々増加しています。自動車に過度に頼らなくとも住み続けられる町を意向する町民の意見は多く、継続して地域公共交通の利便性の向上と利用促進が必要です。

課題 3：多様な主体との連携

地域公共交通は、医療、福祉、商業、交通安全、教育、観光、まちづくり、地域コミュニティ等、多岐にわたる分野に関係しています。関係する施設や団体と連携し、町全体で地域公共交通を利用して支える仕組みづくりが必要です。

5. 地域公共交通の基本方針と目標

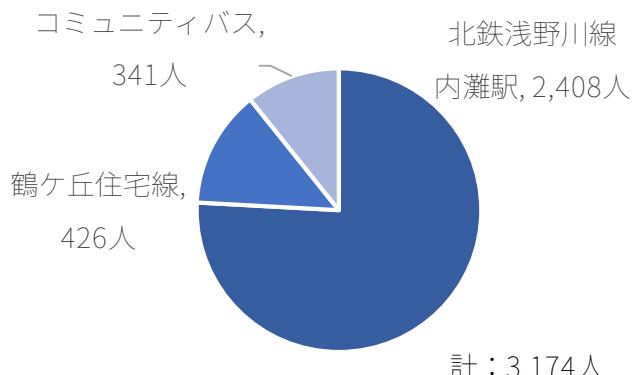
5-1. 基本方針

基本方針 1

内灘駅を拠点とした地域公共交通ネットワークの構築

- ・北鉄浅野川線は、内灘町の地域公共交通にとって大きな役割を担っています。内灘駅の交流・賑わい機能の確保、及び情報提供の整理を行い、駅の魅力向上を図ります。
- ・町内全体の公共交通の拠点として、多様な公共交通の利便性の向上を図り交通ネットワークの構築を図ります。

図表 内灘町の地域公共交通の1日の利用者数



出典：北陸鉄道（株）、内灘町、路線バスのその他の路線についてはデータなし

基本方針 2

町内の移動の利便性向上

- ・町内を運行する路線バス、コミュニティバスを資源と捉え、データを活用しながら一体的に改編や利用促進を行います。また、特に北部の利便性向上を図ります。

基本方針 3

地域公共交通を利用する意識づくり

- ・地域公共交通を維持していくためには、地域で利用して支えていくことが必要です。公共交通利用の対象者に利用の働きかけを行うとともに、多様な関係者や施設と連携してわかりやすい情報提供と意識づくりを行います。

5-2. 目標値

基本方針の達成度を把握するため、以下の指標と目標値を設定します。

指 標	現況値（令和6年度）	目標値（令和12年度）	評価年
町内の公共交通利用者数	1,149,758 人/年 ^{※1}	1,260,000 人/年 ^{※2}	毎年

【評価方法等】内灘町が各交通事業者より利用者数データを収集し試算する。北陸鉄道浅野川線内灘駅、路線バス、コミュニティバスの年間利用者数の合計。北鉄金沢バス（株）の路線は利用者数調査より試算。

※1：令和6年度の北陸鉄道浅野川線の内灘駅の乗降者数、路線バス（利用者数調査の日平均を年間試算。鶴ヶ丘住宅線の全路線の利用者数）及びコミュニティバスの利用者数の合計。

※2：令和5年度から令和6年度の町内の公共交通利用者数の増加分と事業効果から算出

指 標	現況値（令和7年度）	目標値（令和12年度）	評価年
地域公共交通に対する町民満足度	-0.46 ^{※3}	0.0	令和12年

【評価方法等】内灘町が総合計画策定時に用いた町民満足度アンケート結果を活用。

※3：内灘町総合計画（R8）策定時に実施した、「利用しやすい電車やバスなどの公共交通環境の整備、維持」に関する町民満足度アンケート結果。「満足」2点、「やや満足」1点、「普通」0点、「やや不満」-1点、「不満」-2点として算出した加重平均値。

指 標	現況値（令和6年度）	目標値（令和12年度）	評価年
地域公共交通にかかる財政負担額	79,909 千円/年	現状より減少	毎年

【評価方法等】路線バスの補助とコミュニティバスの業務委託費用の合計。

6. 目標を達成するために行う施策と実施主体

6-1. 地域公共交通ネットワーク

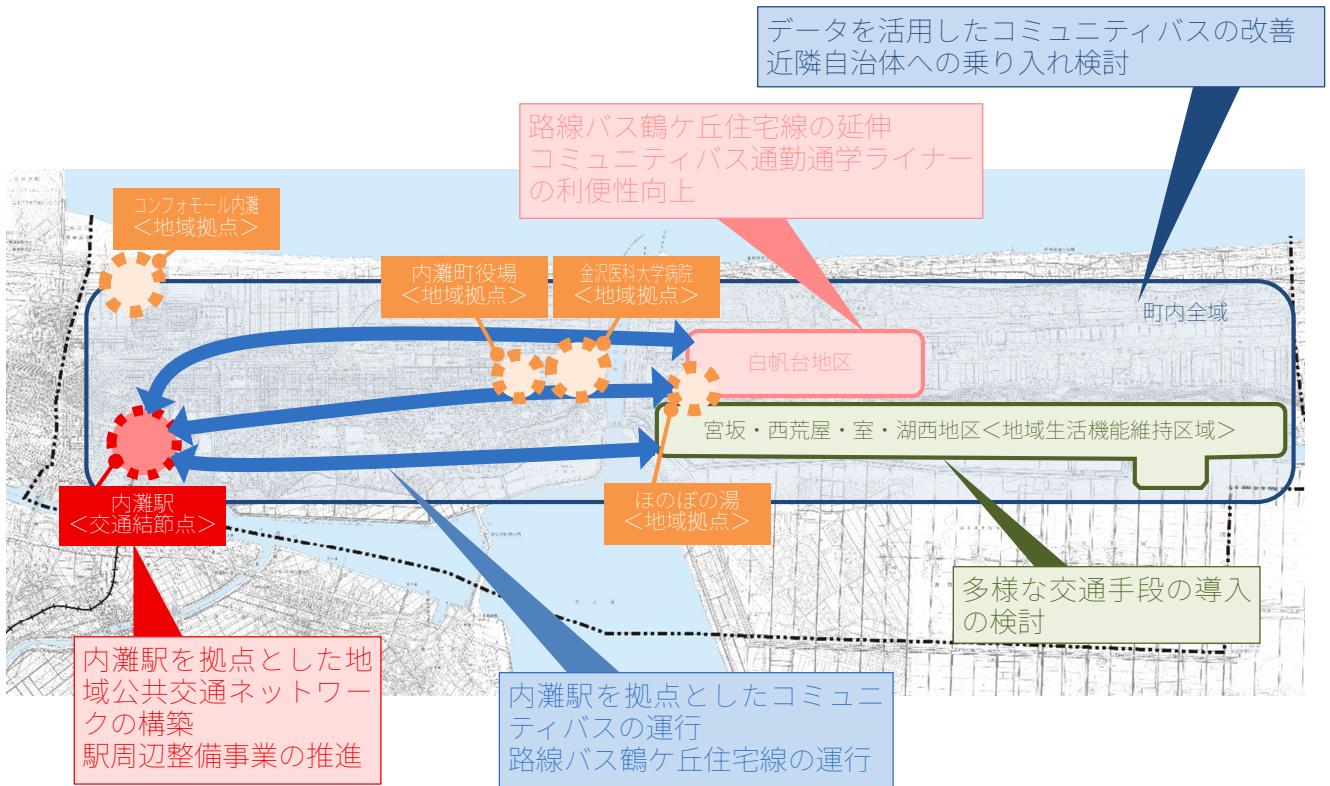
将来都市構造を支える公共交通軸となる持続可能で利便性・快適性の高い地域公共交通ネットワークを構築するため、交通手段別の位置づけとネットワークイメージを以下のように定めます。

図表 交通手段の位置づけ

位置づけ	交通手段		役割
広域交通	鉄道	北陸鉄道浅野川線	町外への移動、特に金沢市への移動手段となる移動手段
	幹線バス路線	●路線バス 錦町粟崎線 内灘線	
生活交通	地域路線	●路線バス 鶴ヶ丘住宅線 ●コミュニティバス 朝夕通勤通学ライナー ・室ルート ・白帆台ルート 循環バス ・時計回りルート※ ・反時計回りルート※ ・8の字ルート※ 往復バス ・北部ルート	内灘駅を拠点とした地域内の短距離の移動手段となる地域内の移動手段
		タクシー	

※買い物や通院等の町民のくらしを支えるために必要な路線であり、将来にわたり維持を図るため、地域公共交通確保維持事業において運行費の国庫補助（フィーダー補助）を活用します。

図表 地域公共交通ネットワーク図



6-2. 取り組み施策の概要

基本方針	取り組み施策	事業	実施主体
基本方針 1： 内灘駅を拠点とした地域公共交通ネットワークの構築	1-1 北陸鉄道線の持続可能性確保	①安全運行を確保するための施設・設備の維持・整備	北陸鉄道(株)・石川県・沿線自治体
	1-2 内灘駅周辺整備の推進	①内灘駅での総合的な地域公共交通の案内の掲示・多言語化	北陸鉄道(株)・北鉄金沢バス(株)・タクシー事業者・内灘町
		②駅舎・車両等の環境美化活動の実施	北陸鉄道(株)・石川県・民間企業・住民・内灘町
		③内灘駅周辺整備事業基本構想の推進	北陸鉄道(株)・石川県・民間企業・住民・内灘町
		④パーク・アンド・ライドの検討	北陸鉄道(株)・内灘町
	1-3 一体的な情報提供	①広域的なMaaSの推進	金沢MaaSコンソーシアム
		②町内全体での統一した情報提供	北陸鉄道(株)・北鉄金沢バス(株)・タクシー事業者・内灘町
	1-4 公共交通の利用しやすさ向上	①路線バスとコミュニティバスの接続改善	北鉄金沢バス(株)・内灘町
		②高校生通学助成の実施	内灘町
		③自転車を活用した二次交通サービスの充実	北陸鉄道(株)・内灘町
基本方針 2： 町内の移動の利便性向上	2-1 北部の利便性向上	①白帆台地区の通勤通学の利便性向上	北鉄金沢バス(株)・内灘町
		②宮坂地区・西荒屋地区・室地区・湖西地区の利便性向上	内灘町
	2-2 コミュニティバスの利便性向上	①コミュニティバスの改編	内灘町
		②コミュニティバス無料パスポートの交付	内灘町
		③バス待ち時間の負担軽減	コミュニティバス運行事業者・内灘町
基本方針 3： 地域公共交通を利用する意識づくり	3-1 公共交通利用のための働きかけ	①意識啓発と利用促進の実施	北陸鉄道(株)、北鉄金沢バス(株)・シニアクラブ・女性協議会・小中学校・内灘町
	3-2 わかりやすい情報提供	①地域公共交通の利用状況の提示	内灘町
		②わかりやすい経路表示や情報提供	北陸鉄道(株)・北鉄金沢バス(株)・内灘町
		③主要施設でのわかりやすい情報提供	北陸鉄道(株)・北鉄金沢バス(株)・金沢医科大学病院・内灘町

基本方針 1：内灘駅を拠点とした地域公共交通ネットワークの構築

施策 1-1 北陸鉄道線の持続可能性確保

1-1-① 安全運行を確保するための施設・設備の維持・整備					
事業概要	<ul style="list-style-type: none">北陸鉄道浅野川線は、大量輸送機関として内灘町の通勤・通学などの移動を支える重要な交通手段です。北陸鉄道浅野川線の安全運行や利便性を確保するため、設備投資等への支援を継続します。また、みなし上下分離の支援についても、今後行う予定です。				
実施主体	北陸鉄道(株)・石川県・沿線自治体				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	実施	実施	実施	実施	実施

施策 1-2 内灘駅周辺整備の推進

1-2-① 内灘駅での総合的な地域公共交通の案内の掲示・多言語化					
事業概要	<ul style="list-style-type: none">内灘駅では、路線バス、コミュニティバス・タクシーが停車します。乗継情報や路線図、時刻に合わせた出発案内等（デジタルサイネージ等）、利用者においてわかりやすい情報提供を行います。外国人観光客への対応として多言語化を進めます。				
実施主体	北陸鉄道(株)・北鉄金沢バス(株)・タクシー事業者・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	検討	検討	実施	実施	実施

1－2－② 駅舎・車両等の環境美化活動の実施

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利用者が激減するなかで、公共交通は交通事業者のみならず、行政や民間企業、地域住民にとって重要な資源であり、当事者意識や責任を持つことが重要です。 地元住民による環境美化活動、安全性のPRやふるさと納税制度の活用等により、北陸鉄道浅野川線を支えることをを目指します。 				
実施主体	北陸鉄道(株)・石川県・民間企業・住民・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	検討	検討	実施	実施	実施

1－2－③ 内灘駅周辺整備事業基本構想の推進

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 内灘駅周辺整備事業基本構想（平成30年11月）では、内灘駅周辺において〔一般車、バス、自転車の動線分離〕〔安全に往来できる駐輪・送迎スペースの確保〕〔単なる交通機能だけではなく、町民が駅で快適に集うことができる交流・賑わい機能の確保〕が計画されており、駅の敷地内だけではなく、駅周辺道路の拡張を含めた一体的な整備を目指しています。 内灘駅周辺整備事業基本構想の具現化に向け、関係機関との協議等を行なながら、実現性の高い計画内容の検討を進めます。 				
実施主体	北陸鉄道(株)・石川県・民間企業・住民・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	推進	推進	推進	推進	推進

1－2－④ パーク・アンド・ライドの推進

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 石川中央都市圏での通勤時パーク・アンド・ライドの目標駐車場は2,600台となっていますが、目標に対して約50%の収容台数に留まっています。 パーク・アンド・ライド駐車場・駐輪場の整備・拡充、利用者や駐車場提供者のインセンティブについて検討を行います。 				
実施主体	北陸鉄道(株)・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	推進	推進	推進	推進	推進

施策 1－3 一體的な情報提供

1－3－① 広域的な MaaS※の推進					
事業概要	<ul style="list-style-type: none">市民等が便利・自由・快適に移動できるまちづくりを官民連携で進めるため、金沢市は令和3年に金沢 MaaS コンソーシアムを設立しました。石川中央都市圏における MaaS の拡大を目指し、金沢 MaaS コンソーシアムへの参加を図り、多様な交通モードや、観光・商業等の他分野との連携強化を図りながら、サブスクリプション等による新しい公共交通の利用スタイルを検討します。				
実施主体	金沢 MaaS コンソーシアム				
スケジュール	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度
	推進	推進	推進	推進	推進

※MaaS (Mobility as a Service) :

運営主体にかかわらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を 1 つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念。利用者はスマートフォンのアプリを用いて、交通手段やルートを検索、利用し、運賃等の決済を行う例が多い。

1－3－② 町内全体での統一した情報提供					
事業概要	<ul style="list-style-type: none">町内では、様々な公共交通が運行しており、それぞれが独自のルールで情報提供を行っているため統一感が無く、来訪者や普段あまり公共交通を利用しない住民にとってわかりにくくない状況です。媒体（紙の時刻表、バス停案内、待合室での案内板等）によって提供すべき情報を整理し、統一したフォーマット（色・番号・文字の種類や大きさ、案内方法等）で作成することにより、提供する情報の見やすさ・わかりやすさの向上を図ります。高齢者や障がい者等あらゆる人にとってわかりやすく利用しやすい地域公共交通網を構築するため、提供する情報のユニバーサルデザイン化を推進します。				
実施主体	北陸鉄道(株)・北鉄金沢バス(株)・タクシー事業者・内灘町				
スケジュール	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度
	検討	検討	実施	実施	実施

施策 1－4 公共交通の利用しやすさ向上

1－4－① 路線バスとコミュニティバスの接続改善					
事業概要	<ul style="list-style-type: none">・広域交通である路線バスと町内を巡るコミュニティバスとの接続性向上は、移動の利便性向上にとって重要です。・路線バスとコミュニティバスの接続を向上させるためのダイヤの見直しを検討します。				
実施主体	北鉄金沢バス(株)・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	検討	検討	実施	実施	実施

1－4－② 高校生通学助成の実施					
事業概要	<ul style="list-style-type: none">・町内の高校生の通学費用は大きく、家庭への負担が懸念されます。内灘町では、令和5年度から、高校生等通学支援給付金事業を実施してきました。・今後も事業を継続するとともに、助成の拡大も検討します。				
実施主体	内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	実施	実施	実施	実施	実施

＜高校生等通学支援給付金 事業概要＞

対象者：高校生等

内容：1年間で 12,000 円給付

給付数：616 人（令和6年度）

1-4-③ 自転車を活用した二次交通サービスの充実

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 北陸鉄道浅野川線ではサイクルトレインの取組を実施しており、また石川県では「いしかわ里山里海サイクリングルート」の取組を実施しており、内灘駅が「のと里浜ルート」の起点となっています。 サイクルトレイン推進、レンタサイクルのサービス拡大、シェアサイクル等による二次交通の充実を図ります。 				
実施主体	北陸鉄道(株)・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	実施	実施	実施	実施	実施

図表 浅野川線サイクルトレイン案内



北陸鐵道

出典：北陸鉄道（株）

図表 いしかわ里山里海サイクリングルート のと里浜ルート

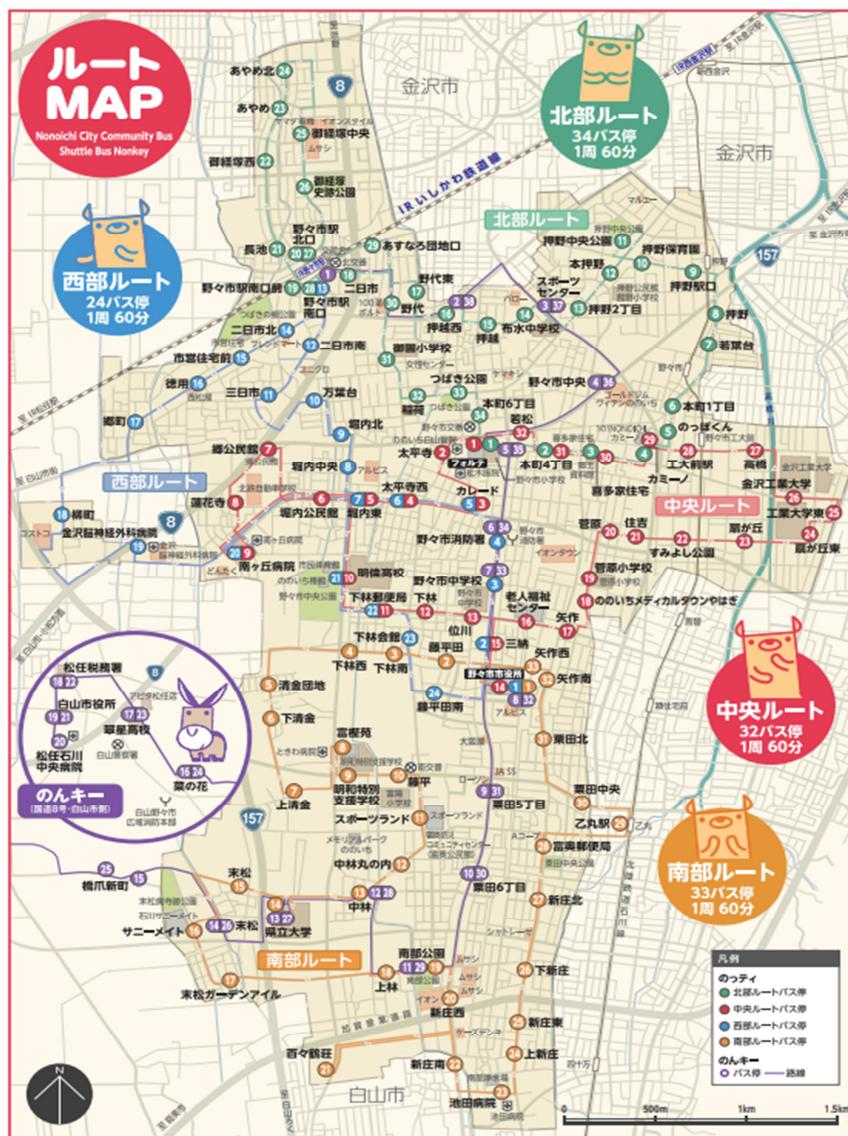


出典：石川県

1-4-④ 近隣自治体への乗り入れの検討

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 現在コミュニティバスは町内のみを運行していますが、住民は近隣自治体へ多く移動をしている状況です。 住民の移動実態にあわせて、近隣の金沢市・津幡町・かほく市等の自治体への乗り入れの検討を行います。 				
実施主体	内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	検討	検討	検討	検討	検討

図表 コミュニティバス のんきールート



出典：野々市市

基本方針 2：町内の移動の利便性向上

施策 2－1 北部の利便性向上

2－1－① 白帆台地区の通勤通学の利便性向上

事業概要	<ul style="list-style-type: none">内灘駅と金沢医科大学病院を結ぶ路線バス鶴ヶ丘住宅線は、37便/日運行しており、うち15便が白帆台地区まで延伸して運行しています。白帆台地区は近年人口増加が続いているため、路線バス鶴ヶ丘住宅線の白帆台地区延伸便を増便することによる白帆台住民の移動手段の確保の可能性を検討するとともに、コミュニティバス通勤通学ライナーの白帆台ルートの利便性を向上させます。				
実施主体	北鉄金沢バス(株)・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	検討	検討	実施	実施	実施

2－1－② 宮坂地区・西荒屋地区・室地区・湖西地区の利便性向上

事業概要	<ul style="list-style-type: none">令和6年能登半島地震では、北部の宮坂地区、西荒屋地区、室地区、湖西地区の被害が大きく、これらの地区は立地適正化計画において「地域生活機能維持区域」に設定され、日常生活を支える都市機能の保全に努め、人口の急激な減少を抑止し、コミュニティが持続的に維持できることを目指しています。宮坂地区、西荒屋地区、室地区、湖西地区の移動の利便性を向上させるため、多様な交通手段の導入を検討します。				
実施主体	内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	検討	検討	実施	実施	実施

施策2－2 コミュニティバスの利便性向上

2－2－① コミュニティバスの改編

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの利用者数は増加傾向ですが、利用者からは「わかりづらい」「乗車時間が長い」などのご意見をいただいています。また、利用が少ないバス停が見られるなど、効率化を図る余地があることが想定されます。 ・令和7年12月にバスロケーションシステムを導入したことで、利用実態をより詳細に把握することが可能となります。 ・上記データを活用して、わかりやすく、乗りやすく、効率的なコミュニティバスを目指し、改編します。 				
実施主体	内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	検討	検討	実施	実施	実施

2－2－② コミュニティバス無料パスポートの交付

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の外出機会の創出は健康促進につながり重要です。また、運転免許返納促進の促進も必要です。 ・令和7年10月から実施している満70歳以上の町民に対するコミュニティバス無料パスポートの交付を継続して行います。 				
実施主体	内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	実施	実施	実施	実施	実施

＜事業概要＞

対象者：満70歳以上の町民の方、満70歳以上の町外からの避難者（令和6年能登半島地震）

内容：コミュニティバス全ルートで運賃が無料となるパスポートを交付

交付枚数：1,206枚（令和7年10～12月）

図表 コミュニティバス無料パスポート



2-2-③ バス待ち時間の負担感軽減

事業概要	・令和7年12月より、利用者の待ち時間に対する負担感を減少させるため、バスロケーションシステムを導入します。				
実施主体	コミュニティバス運行事業者・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	実施	実施	実施	実施	実施

図表 バスロケーションシステム 表示画面



基本方針 3：地域公共交通を利用する意識づくり

施策3-1 公共交通利用のための意識醸成

3－1－① 意識啓発と利用促進の実施											
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・運転免許証自主返納促進事業の中で、コミュニティバスの便利な使い方等の周知を行います。 ・町の広報紙等で、公共交通のPRや高齢者の運転リスク等について、継続的に周知を行います。 ・北陸鉄道浅野川線や路線バス、及びコミュニティバスの無料乗車券の配布や、バス乗車体験イベントの実施を行います。 ・利用促進だけでなく公共交通を支える風土を醸成するため、各種団体等との連携施策を検討します。 										
実施主体	北陸鉄道(株)・北鉄金沢バス(株)・シニアクラブ・女性協議会・小中学校・内灘町										
スケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和8年度</th><th>令和9年度</th><th>令和10年度</th><th>令和11年度</th><th>令和12年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td></tr> </tbody> </table>	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	実施	実施	実施	実施	実施
令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度							
実施	実施	実施	実施	実施							

図表 マイ時刻表

ぐるっと かづらぎ		葛城市	コミュニティバス
葛城 太郎 様		マイ時刻表	
(発)新庄庁舎前 → (着)道の駅かづらぎ			
① - 現状バス ② - ミニバス 平成28年11月30日現在			
行き			
(発)	○○ルート	○○ルート	○○ルート
○○○○		○○○○	
00:00	(発)	(着)	(発)
00:00	00:00	00:00	00:00
00:00	00:00	00:00	00:00
帰り			
(着)	○○ルート	○○ルート	○○ルート
○○○○		○○○○	
00:00	(着)	(発)	(着)
00:00	00:00	00:00	00:00
00:00	00:00	00:00	00:00
お問い合わせ先	○運行について: 奈良交通営業部 0745-63-2001 ○車両について: 高速料金支払機 0745-69-3001		

出典：葛城市 HP

図表 小学生対象の乗車イベント



出典：富山市 HP

施策3－2 わかりやすい情報提供

3－2－① 地域公共交通の利用状況の提示					
事業概要	・地域公共交通を維持していくためには地域の支えが必要不可欠であること を、町民一人ひとりに実感してもらえるよう、コミュニティバスの経営状況 や利用状況を継続的に情報発信します。				
実施主体	内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	実施	実施	実施	実施	実施
3－2－② わかりやすい経路表示や情報提供					
事業概要	・「1－3－② 町内全体での統一した情報提供」に準拠して、わかりやすい 時刻表等の作成と配布、及びわかりやすいバス停表記を行います。				
実施主体	北陸鉄道(株)・北鉄金沢バス(株)・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	検討	検討	実施	実施	実施
3－2－③ 主要施設でのわかりやすい情報提供					
事業概要	・交通結節点である内灘駅や金沢医科大学病院において、それぞれの公共交通 が別々に時刻表や路線図を表示しているため、情報が繁雑化してわかり にくい状況です。 ・「1－3－② 町内全体での統一した情報提供」に準拠した統一したフォー マットで、異なる公共交通との乗り換え案内等の複合的な案内板を作成・ 設置することで、繁雑化した情報の集約を図ります。				
実施主体	北陸鉄道(株)・北鉄金沢バス(株)・金沢医科大学病院・内灘町				
スケジュール	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	検討	検討	実施	実施	実施

7. 計画の推進体制と進捗管理

本計画は、本町が目指す公共交通施策の基本方針を示したものであり、今後、この基本方針に即して各施策・事業の実施に向けた「方法・役割分担・予算化」等について具体的な検討を進めます。また、公共交通施策の実施は、他分野の施策と一体的に取り組むことで効果を発揮するものもあり、府内関係課のみならず、国や県並びに周辺市町、公共交通事業者等と緊密に連携しながら、将来のまちづくりを見据えた取組を展開します。住民・地域と行政が協働して施策を推進するという観点に立ち、地域住民や町会等からの支援や協力を得て、持続可能な公共交通網の形成を目指します。

事業内容については、計画に基づく事業の実施状況、目標指標の達成状況を定期的に確認・評価・検証を行い、改善や見直しを図るPDCAサイクルに基づき進捗を管理します。また、毎年の内灘町地域公共交通協議会によって進捗状況や効果を定量的・客観的に評価し、必要に応じて見直しを行っていくものとします。

図表 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会			①							②		
実施事項	前年度の検証		昨年度評価・確保維持改善計画		今年度事業計画へ反映			次年度予算要求	→	改編案検討・今年度評価		

今年度事業計画へ反映
→
今年度事業計画実施
→
次年度予算要求
→
改編案検討・今年度評価

←
→

図表 毎年収集する利用実績など

分類	収集データ	実施主体
北陸鉄道	内灘駅利用者数	北陸鉄道（株）
	補助金額	内灘町
路線バス	路線バス（鶴ヶ丘住宅線）利用者数	北鉄金沢バス（株）
コミュニティバス	ルート別バス停別乗降車数	コミュニティバス運行事業者
	収支状況	内灘町
	回数券、定期券の販売数	内灘町

図表 収集する意見など

分類	収集データ	実施主体
利用者の意見	町民の意見	内灘町
運行事業者の意見	利用状況・運行上の課題や改善点	北陸鉄道（株） 北鉄金沢バス（株） コミュニティバス運行事業者内灘町